

令和 6 年度教職員勤務実態調査について

令和 7 年 5 月 2 0 日

1 概要

- 1－1 目的と現状
- 1－2 関連する取組との全体像
- 1－3 令和6年度勤務実態調査の概要

2 意見交換会について

- 2－1 意見交換会の実施概要
- 2－2 第1回意見交換会の実施状況
- 2－3 第2回意見交換会の実施状況
- 2－4 若手教員との意見交換会

3 成果と考察

- 3－1 意見集約リスト
- 3－2 教育課程の編成による創造的な余白づくり
- 3－3 教員の負担軽減・業務改善
- 3－4 児童生徒主体の学びへ転換
- 3－5 仕組みづくり・環境整備など
- 3－6 取組の進め方の考察

4 令和7年度への展開

1 概要

1 – 1 目的と現状

1 – 2 関連する取組との全体像

1 – 3 令和6年度勤務実態調査の概要

1－1 目的と現状

■目的

教員の長時間勤務の是正に向けて、教員の多忙感と勤務に対する意識調査を実施するとともに、全国の先進的な働き方・仕事の進め方改革の取組事例等を参考にしながら、本市の特性等を踏まえて、多岐にわたる課題や解決方策等に関する意見交換会を開催し、教育委員会事務局や学校現場の学校管理職と教職員が対応すべき課題等を校種ごとに整理・共通認識化を図り、令和８年度からの「（仮）第３次教職員の働き方・仕事の進め方改革の方針」の改定作業の基礎資料とすることを目的としました。

■これまでの取組概要（「第２次教職員の働き方・仕事の進め方改革の方針」より）

視点１ 学校における業務改善・支援体制の整備		視点２ チーム体制の構築と学校を支える人員体制の確保		視点３ 働き方・仕事の進め方に関する意識改革の推進	
1	各学校における業務改善の支援	1	教育課題に対応した教職員配置の工夫	1	教職員一人ひとりの働き方に関する意識改革
2	学校給食費の管理の在り方	2	学校事務職員の能力活用	2	出退勤時刻の管理
3	就学援助システムの効果的な運用	3	教職員事務支援員等の効果的な配置	3	学校閉庁日の実施
4	地域住民等との更なる連携の推進	4	部活動指導員の配置拡充	4	部活動指導業務の見直しに向けた取組
5	校務の情報化の更なる推進	5	専門スタッフの効果的な配置の継続	5	ヘルスリテラシー向上の取組
6	GIGA端末を活用した学校業務の効率化の推進	6	法律相談弁護士の配置	6	多様な働き方の推進
7	研修体制の見直し			7	学年始休業の変更
8	調査業務の見直し				
9	留守番電話の設置				
10	通知表に関する検討				
11	押印の見直し及び連絡手段のデジタル化の推進				

1 - 1 目的と現状

■現状（「教職員の働き方・仕事の進め方改革の方針に関する取組について【令和5年度】」の報告より）

令和5年度の年間平均は、原則①、原則②、特例①、特例②、特例④は基準年度及び前年度より割合が減少しました。また「可能な限りなくしていく」と目標設定している特例③も、基準年度及び前年度より割合が減少しました。

I 量的目標

《原則》

- ① 1か月 45時間を超える教育職員の割合
- ② 1年間 360時間を超える教育職員の割合

《臨時的な特別の事情による場合（特例）》

- ① 1か月 100時間以上の教育職員の割合
- ② 1年間 720時間を超える教育職員の割合
- ③ 直前の1か月～5か月の期間を加えた各期間における1か月当たりの平均時間 80時間を超える教育職員の割合
- ④ 45時間を超えた月数が年間6か月を超える教育職員の割合

原則①②及び特例①②④ 「基準年度※」未満 かつ「前年度」未満とする。

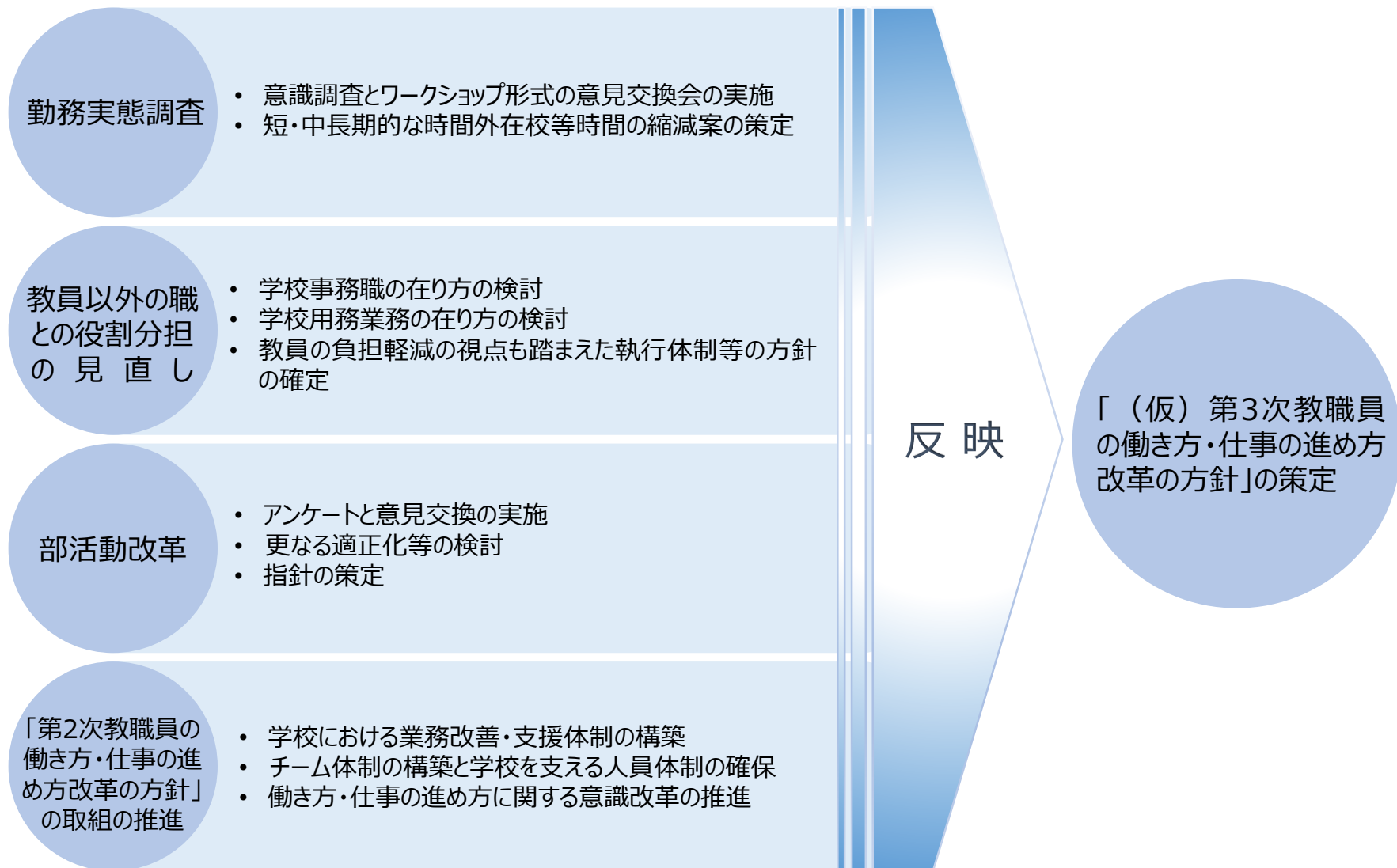
特例③ 可能な限りなくしていく。【重点目標】

原則	原則① 45h/月	原則② 360h/年	特例	特例① 100h/月	特例② 720h/年	特例③ 80h（連続）	特例④ 45h(年6月)
基準年度	48.8%	75.2%	基準年度	4.1%	25.3%	23.6%	49.7%
令和3年度	43.5%	71.5%	令和3年度	4.1%	20.9%	22.2%	43.7%
令和4年度	43.8%	71.3%	令和4年度	4.5%	21.4%	19.4%	44.3%
令和5年度	40.6%	68.5%	令和5年度	3.9%	19.2%	18.3%	39.3%

※「基準年度」とは、学校業務が新型コロナウイルス感染症の影響を比較的受けていない期間と定義し、『平成31（2019）年4月～令和2（2020）年2月及び令和3（2021）年3月』とする。

1 - 2 関連する取組との全体像

勤務実態調査は関連する取組と整合性を図りながら進め、令和7年度末に策定予定の「（仮）第3次教職員の働き方・仕事の進め方改革の方針」に反映します。



1 - 3 令和6年度勤務実態調査の概要

ねらい	令和5年度の意見交換会でとりまとめた「4つの対応の方向性」をもとに、現状や課題を把握しつつ、市内における事例の共有及び他自治体の事例等を踏まえた既存の概念や業務に捉われない柔軟な発想を通じて、全ての小中学校の参加者の視野を広げ、今後の具体的な施策案を取りまとめる。			
4つの対応の方向性	① 教育課程の編成による創造的な余白づくり	② 教員の負担軽減・業務改善	③ 児童生徒主体の学びへ転換	④ 仕組みづくり・環境整備など
対象者	【小学校114校】 校長 114人、教頭 114人、教務主任 114人 小計342人 【中学校52校】 校長 52人、副校長・教頭 53人、教務主任 52人 小計157人 合計499人			
意見交換会	校長	第1回 ・昨年描いた方向性の共有 ・各学校で実現できそうなことを模索する	→	第2回 ・全校（全役職）で挙げた実現方法のまとめ共有 ・各学校でのアクションプラン検討
	教頭 教務主任	第1回 ・昨年描いた方向性の共有 ・各学校で実現できそうなことを模索する	→	第2回 ・全校（各役職）で挙げた実現方法のまとめ共有 ・各学校でのアクションプラン検討
	【グラドルール】 ＜ルール① 多様な目線で見つめ直す＞ ➢ 「子ども目線」 ⇒ 通い、学ぶという景色 ➢ 「保護者目線」 ⇒ わが子を通わせているという景色 ➢ 「学生目線」 ⇒ 先生になろうという景色 ➢ 「教員目線」 ⇒ たくさんの人生を預かり、育てるという景色		＜ルール② 必要なマインド＞ ➢ バイアス（当たり前、思い込みや固定観念）を外す ➢ 何の制約もなかったら？で対応策を考える ➢ 義務感ではなく、わくわくする未来かどうかで考え直す ➢ 子どもを主語に先生の主体性を大切にする	
目指す姿	教育委員会事務局の伴走支援を受けながら、学校や教職員が主体的に改善に取り組むことで最終的には子どもの学びにより良い変化を起こしていく。		教育委員会事務局の伴走支援による環境改善 → 学校の主体的な業務改善 → 子どもの自立した学び	

2 意見交換会について

2－1 意見交換会の実施概要

2－2 第1回意見交換会の実施状況

2－3 第2回意見交換会の実施状況

2－4 若手教員との意見交換会

2 - 1 意見交換会の実施概要

■小学校

- 全ての市立小学校の校長、教頭、教務主任を対象として、1人あたり2回ずつ参加する意見交換会を実施しました。(計22回)
- 第1回は、行政区別などの比較的少人数で開催し、昨年度の勤務実態調査の共有と各学校で実現できそうなことを模索しました。
- 第2回は、より多くの参加者で複数の行政区で開催し、第1回で出された意見やアイデアのまとめの共有と各学校で実践するための実現方法を検討しました。

【校長グループ】

第1回 意見交換会

No	日付	行政区	参加者数
1	6月21日(金)	麻生区	15
2	7月12日(金)	多摩区	13
3	9月13日(金)	幸区	12
4	10月9日(水)	川崎区	18
5	10月10日(木)	宮前区	17
6	10月16日(水)	中原区	20
7	11月13日(水)	高津区	12

第2回 意見交換会

No	日付	行政区	参加者数
8	12月9日(月)	全市合同	110

【教頭グループ】

第1回 意見交換会

No	日付	行政区	参加者数
9	8月5日(月)	川崎区	20
10	8月5日(月)	中原区	17
11	8月5日(月)	宮前区	19
12	8月20日(火)	幸区 麻生区	27
13	8月20日(火)	高津区 多摩区	27

第2回 意見交換会

No	日付	行政区	参加者数
14	8月23日(金)	川崎区 中原区 宮前区	56
15	8月23日(金)	幸区 高津区 多摩区 麻生区	50

【教務主任グループ】

第1回 意見交換会

No	日付	行政区	参加者数
16	7月23日(火)	中原区	19
17	7月23日(火)	川崎区	15
18	7月23日(火)	宮前区	17
19	7月23日(火)	高津区 多摩区	30
20	8月5日(月)	幸区 麻生区	28

第2回 意見交換会

No	日付	行政区	参加者数
21	8月20日(火)	川崎区 中原区 宮前区	50
22	8月20日(火)	幸区 高津区 多摩区 麻生区	55

2 - 1 意見交換会の実施概要

■中学校

- ・全ての市立中学校の校長、副校長・教頭、教務主任を対象として、1人あたり2回ずつ参加する意見交換会を実施しました。(計9回)
- ・第1回は、比較的少人数で開催し、昨年度の勤務実態調査の共有と各学校で実現できそうなことを模索しました。
- ・第2回は、全市合同で開催し、第1回で出された意見やアイデアのまとめの共有と各学校で実践するための実現方法を検討しました。

【校長グループ】

第1回 意見交換会			
No	日付	行政区	参加者数
23	7月12日(金)	川崎区 多摩区 麻生区	25
24	10月10日(木)	幸区 中原区 高津区 宮前区	24

【副校長・教頭グループ】

第1回 意見交換会			
No	日付	行政区	参加者数
26	7月16日(火)	幸区 中原区 高津区 宮前区	25
27	7月18日(木)	川崎区 多摩区 麻生区	28

【教務主任グループ】

第1回 意見交換会			
No	日付	行政区	参加者数
29	7月16日(火)	幸区 中原区 高津区 宮前区	25
30	7月18日(木)	川崎区 多摩区 麻生区	27

第2回 意見交換会

No	日付	行政区	参加者数
25	11月12日(火)	全市合同	52

第2回 意見交換会

No	日付	行政区	参加者数
28	8月22日(木)	全市合同	49

第2回 意見交換会

No	日付	行政区	参加者数
31	8月22日(木)	全市合同	52

■小学校・中学校・高等学校・特別支援学校

- ・若手教員との対話から、その困り感や働き続けたいと思える環境とは何かについて、意見やアイデア出しを行いました。
- ・第1回は、川崎区の2校目異動者研修の対象者で意見交換会を実施しました。
- ・第2回は、幸区の初任者研修の対象者で意見交換会を実施しました。

第1回 若手教員との意見交換会

No	日付	行政区	参加者数
32	8月6日(金)	川崎区	36

第2回 若手教員との意見交換会

No	日付	行政区	参加者数
33	8月29日(木)	幸区	47

2-2 第1回意見交換会の実施状況

■小学校

- ・全ての市立小学校の校長、教頭、教務主任別の意見交換会を、地区別に開催しました。
- ・参加者は、校長（計107人）、教頭（計110人）、教務主任（計109人）と、教育委員、教育委員会事務局職員で構成し、5～6人のテーブルに分かれて、学校間及び教育委員会との意見交換を行いました。
- ・第1回目は、令和5年度の勤務実態調査を踏まえた令和6年度の目的や見通しを伝えた上で、「4つの対応の方向性」を元に、テーブルごとに意見や実践事例を出し合いました。

■昨年度の実践共有

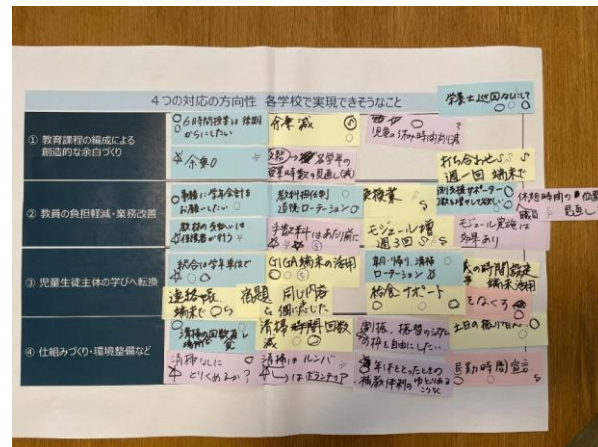
4つの対応の方向性

- ① 教育課程の編成による創造的な余白づくり
- ② 教員の負担軽減・業務改善
- ③ 児童生徒主体の学びへ転換
- ④ 仕組みづくり・環境整備など

■本市及び全国での事例共有



■各学校での実現に向けて検討



方向性の共通理解

昨年度の小学校校長会役員での意見交換会で示された「4つの対応の方向性」について共有し、各方針の意図や昨年度の意見を紹介しました。大部分が学校裁量で実現が可能な取り組みと、川崎市全体で必要な取組についての共通理解を図りました。

インプット

全国での学校業務改善の事例のある教育関連事業者のファシリテーターによる、他自治体の好事例の取組紹介や、テーブルごとに各校の取組の共有、教育委員や事務局職員との情報共有、質疑応答を行いました。

アウトプット

テーブルごとに、「4つの対応の方向性」に沿って、各校で既に行っている取組、今後実践してみたい取組を付箋で書き出しました。その後、全テーブルの付箋を共有し、自分の学校でも行っている取組、実践したい取組の付箋にマークを付け、集計を行いました。特に時程について、意見が集まりました。

2-2 第1回意見交換会の実施状況

■中学校

- ・全ての市立中学校の校長、副校長・教頭、教務主任別の意見交換会を、地区別に開催しました。
- ・参加者は、校長（計49人）、教頭（計53人）、教務主任（計52人）と、教育委員、教育委員会事務局職員で構成し、5～6人のテーブルに分かれて、学校間及び教育委員会との意見交換を行いました。
- ・第1回目は、令和5年度の勤務実態調査を踏まえた令和6年度の目的や見通しを伝えた上で、「4つの対応の方向性」を元に、テーブルごとに意見や実践事例を出し合いました。

■昨年度の取組共有

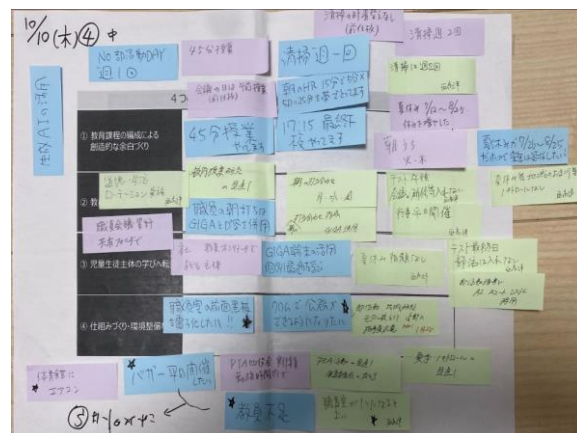
4つの対応の方向性

- ① 教育課程の編成による創造的な余白づくり
- ② 教員の負担軽減・業務改善
- ③ 児童生徒主体の学びへ転換
- ④ 仕組みづくり・環境整備など

■本市及び全国での事例共有



■各学校での実現に向けて検討



方向性の共通理解

昨年度の中学校校長会役員での意見交換会で示された「4つの対応の方向性」について共有し、各方針の意図や昨年度の意見を紹介しました。大部分が学校裁量で実現が可能な取り組みと、川崎市全体で必要な取組についての共通理解を図りました。

インプット

全国での学校業務改善の事例のある教育関連事業者のファシリテーターによる、他自治体の好事例の取組紹介や、テーブルごとに各校の取組の共有、教育委員や事務局職員との情報共有、質疑応答を行いました。

アウトプット

テーブルごとに、「4つの対応の方向性」に沿って、各校で既に行っている取組、今後実践してみたい取組を付箋で書き出しました。その後、全テーブルの付箋を共有し、自分の学校でも行っている取組、実践したい取組の付箋にマークを付け、集計を行いました。特に時程について、意見が集まりました。

2-2 第1回意見交換会の実施状況

■ 当日資料 — 教師の1日と4つの対応の方向性

「勤務時間内で全ての活動を取り入れること」と「教育の質を高めること」が両立する打ち手を検討することが重要と考えました。
4つの対応の方向性が導出され、教育委員会事務局の伴走支援と各学校の取組を一体的に進めていくことが方向性として見えてきました。

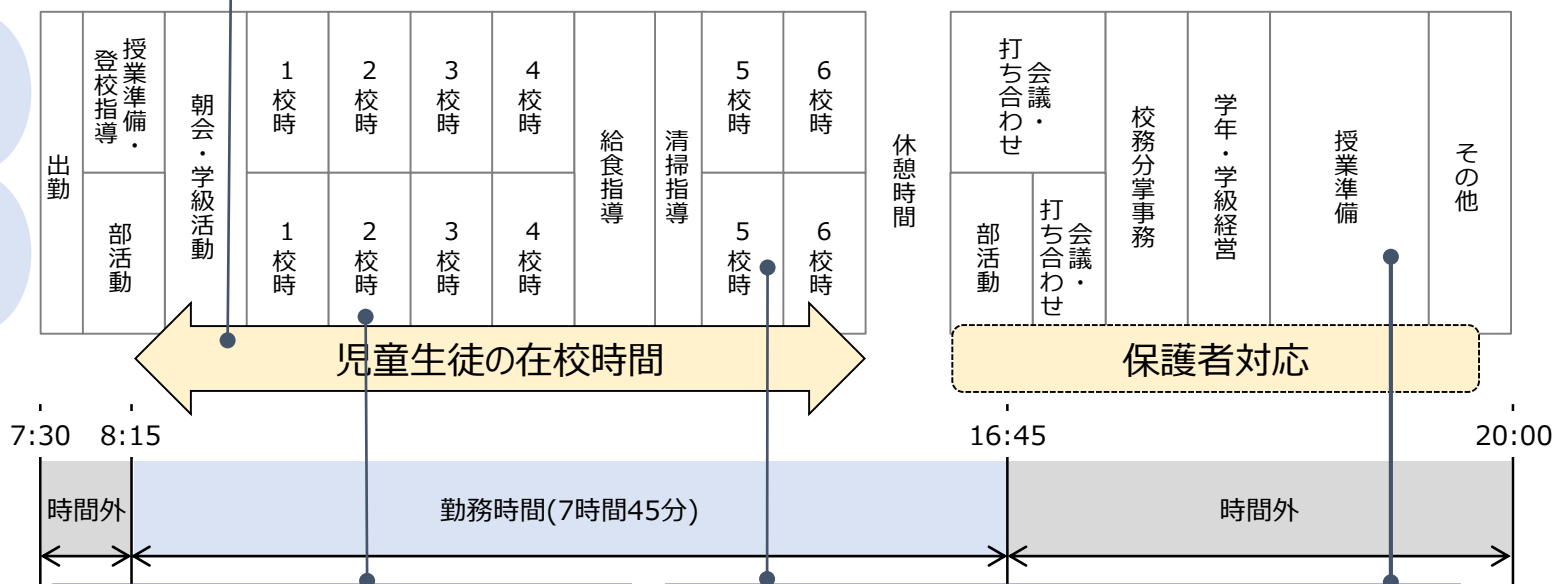
■ 教師の一日

① 教育課程の編成による創造的な余白づくり

- ・年間授業時数や授業時間の見直し
- ・日課・時程表の見直し（〇〇指導の在り方見直しを含む）

小学校

中学校



② 教員の負担軽減・業務改善

- ・学年/チーム担任制、業務ローテーション
- ・調査・通知文書のスリム化など

③ 児童生徒主体の学びへ転換

- ・子どもを自立した学び手へ導く授業改善
- ・その他の教育活動や学級経営でも児童生徒主体に転換

④ 仕組みづくり・環境整備など

- ・人的配置による体制整備（専科の加配、各種支援員の配置など）
- ・多様な働き方を支える柔軟な制度・ルール整備（時差勤務の導入など）
- ・地域人材や外部スタッフの活用など
- ・文部科学省 学校・教師が担う業務に係る3分類への対応など

2-2 第1回意見交換会の実施状況

■小学校第1回意見交換会の意見集約結果概要

1 教育課程の編成 による創造的な 余白づくり	総時間数の見直し（年間/週/時程） シーズンに見合う時間設定 週時数日課（登下校時刻含め）の見直し 授業時間の弾力化（15分・40分・60分など） 清掃・休み時間の縮小/朝の会・帰りの会・集会の省略 行事の精選・簡略化/学校公開日・授業参観のあり方見直し	ほとんどの意見が市 内各学校での実践 例がある取組だった
2 教員の負担軽減 ・業務改善	チーム制（複数教員での授業・学級/学年経営） 会議の精選・GIGA/デジタルの活用 日常的な業務改善の仕組み 学校徴収金のデジタル化/保護者による手続きへ 留守番電話対応 面談から個人面談へ 夏休みの宿題なし	
3 児童生徒主体 の学びへ転換	教員主導から子ども主体の授業/行事への転換/GIGA端末やオンラインを活用した複線型授業 与えられる学習から自ら決める学習へ/一律の宿題から自己選択・自己調整できる形へ 単元テストや成績表から日常でみとる評価のあり方へ 対話を中心とした学び合う校内研究へ/ゲストティーチャーと学べる研究や授業の形	
4 仕組みづくり ・環境整備など	働き方・時間調整の弾力化（時差出勤・パレットの振替・時間調整期間） 年休が取りやすい/出張申請や出張に行きやすい移動や時間の仕組み ノー会議デー・45分の休憩の確保 事務員・事務支援員・用務員・校務員との協働/特別支援サポーターの増員 業務の外部委託（徴収金・給食事務・水泳指導・プール管理・清掃・ワックスがけ・エアコン・ 設備監理など） デジタル端末の一元化（校務PC・GIGA・イントラ）/週案のC4thスプレッドシートの市内共有 保護者・地域との連携（会合・会議は減らす・校内見守りのお願い・徴収金）/ ボランティアの協力体制をつくる（プール・園芸・清掃・校外学習の引率など） 保護者対応の外部委託化・協働（窓口） 学校裁量権（会計・エアコン温度設定） 委員会からの提出文書の削減 職員室のフリーアドレス化	市全体での仕組み 化に対する要望

2-2 第1回意見交換会の実施状況

■ 中学校第1回意見交換会の意見集約結果概要

1 教育課程の編成 による創造的な 余白づくり

総時間数の見直し/カウント
週時数/日課（登下校時刻含め）の見直し/部活動が勤務時間内に収まるようにする
授業時間の弾力化（15分・45分など）
清掃/朝の会・帰りの会・集会の省略
採点日/会議/研修日は授業を午前中のみor5時間授業に
行事の精選・簡略化/学校公開日・面談回数の見直し

2 教員の負担軽減 ・業務改善

チーム担任制/学年経営/教科・給食・分掌・部活のローテーション
採点ソフトの導入
市総体の廃止や開会式等の削減
部活動の引率を原則現地集合・解散に
土日の部活動を教員以外で・大会の対応
留守番電話対応
PTA・地域会議やパトロールの縮小や見直し
宿題のペーパーレス化

3 児童生徒主体 の学びへ転換

生徒が主語の授業（例：自由進度学）習/ノートチェックや小テストの丸つけを生徒に委ねる
学級づくり・特別活動・生徒会・部活動・行事の企画運営を生徒主体に、教師はサポートに徹する
生徒の生活ルールの見直しや弾力的な対応
夏休みの宿題をなくす/プリント教材からスタディサプリやドリルパークなどの電子教材の活用へ
定期テストではなく、単元テストや日常でみとる評価のあり方へ/生徒管理のクラウド化
授業の進め方やネタを具体的な改善例を年間で共有し、学校全体で授業の仕方を見直す

4 仕組みづくり・ 環境整備など

働き方・時間調整の弾力化（時差出勤・パレットの振替・時間調整期間）
年休が取りやすい/出張申請や出張に行きやすい移動や時間の仕組み
ノー会議デー/ノー残業デー/ワークライフバランスデーの設定/45分の休憩の確保
事務業務の市内での標準化
業務の外部委託（徴収金・給食事務・水泳指導・プール管理・清掃・ワックスがけ・エアコン・設備監理など）
デジタル端末の一元化（校務PC・GIGA・イントラ）/委員会からの提出文書の削減・一元化
保護者・地域との連携（会合・会議は減らす・校内見守りのお願い・徴収金）/ボランティアの協力体制をつくる保護者対応の外部委託化・協働（窓口）

ほとんどの意見が市
内各学校での実践
例がある取組だった
+
柔軟な形へ

市全体での仕組み
化に対する要望

2 - 3 第2回意見交換会の実施状況

■小学校

- 全ての市立小学校の校長、教頭、教務主任別の意見交換会を、複数地区合同で開催しました。
- 参加者は、校長（計110人）、教頭（計106人）、教務主任（計105人）と、教育委員、教育委員会事務局職員で構成し、5～6人のグループに分かれて、学校間及び教育委員会との意見交換を行いました。
- 第2回目は、第1回で出された意見やアイデアのまとめの共有と各学校で実践するための実現方法を検討しました。



振り返り・実践事例

第1回目の意見を集計したデータを共有した上で、振り返りを行いました。

教頭、教務主任の意見交換会では、他自治体の講師の実践の共有、校長の意見交換会では、各職種の意見集約データを共有することなどから、持続可能な学校運営体制について考えていきました。



横展開のための意見交換

本市で既にある実践事例や、他自治体の取組をもとにしたアイデアを、市内で横展開していくために、4つの対応の方向性について何ができるかを話し合いました。「学校裁量」、「区単位」、「市全体」での意見を、個別・グループごとに出し合いました。

2－3 第2回意見交換会の実施状況

■中学校

- 全ての市立小学校の校長、教頭、教務主任別の意見交換会を、複数地区合同で開催しました。
- 参加者は、校長（計52人）、教頭（計49人）、教務主任（計52人）と、教育委員、教育委員会事務局職員で構成し、5～6人のグループに分かれて、学校間及び教育委員会との意見交換を行いました。
- 第2回目は、第1回で出された意見やアイデアのまとめの共有と各学校で実践するための実現方法を検討しました。



振り返り・実践事例

第1回目の意見を集計したデータを共有した上で、振り返りを行いました。

教頭、教務主任の意見交換会では、他自治体の講師の実践の共有、校長の意見交換会では、各職種の意見集約データを共有することなどから、持続可能な学校運営体制について考えていきました。



横展開のための意見交換

本市で既にある実践事例や、他自治体の取組をもとにしたアイデアを、市内で横展開していくために、4つの対応の方向性について何ができるかを話し合いました。「学校裁量」、「区単位」、「市全体」での意見を、個別・グループごとに出し合いました。

2 - 3 第2回意見交換会の実施状況

■ 小学校第2回意見交換会（教頭・教務主任）の意見集約結果概要

- ・「今後、第1回で出されたアイデア等で取り組みたい実践内容は？」、「市内や他都市の実践を校内や川崎市全体に広げるために取り組めることは？」について、「校内」、「中学校区・行政区内」、「市全体（校長会、研究会等）」に分けて、参加者がワークシートに記入しました。

校内	中学校区・行政区	市全体（校長会・研究会等）
・年間時数・週時数見直し/放課後時間の確保 ・18:30に退勤時間を設定 ・8:00~8:30の児童の見守り人材・開門時刻を揃える ・授業改革（タブレット使用・教員はファシリテーターになる） ・校内のミニ研修会で日常的に学ぶ（GIGA・教員がやりたいこと）/校内研究のあり方を根本的に変える ・劇場型・職人的な授業から子ども主体の学習へ ・児童が落ち着ける部屋をつくる（市費支援員を配置） ・校庭開放 ・低学年担任が高学年の授業や補教を行う ・現場の人に外部研修を行い意識改革へつなげる ・宿題の見直し（自己選択・自己調整できるものへ） ・働き方改革部会の設置 ・C4th・GIGAを使った情報共有の強化（Classroom・chat・Googleサイト） ・会議の精選/効率化・行事の精選/業務の平準化 ・提案したことが通りやすい会議体制へ（モチベーションUP）	・横のつながりを増やす/学校の実践を共有する ・教務主任の情報交換会を実施 ・施設開放の軽減実施（すでに実行・よかった） ・宿題のあり方を相談する ・テストのデジタル化 ・プール指導の外部委託化 ・地域教育会議のあり方見直し ・地域の人の活用 ・スクールロイヤーを校区に一人配置/難しいクレーム対応の窓口 ・退勤予定ボード ・ボランティアアプリ導入（引率・体力テスト・水泳見守りなど）	・ICTツールやアプリ、予算（外部講師による研修等）の学校裁量を増やす ・市として、学校ができること/できないことを提示する ・Googleサイトを作成し、川崎市の全学校で共有する→実践・教材・やってみたいこと（教職員が自由に投稿・市が定期的に見てOKか判断） ・就学援助・学籍担当など、誰がやるかを統一/会計業務ファイルを市で統一/公会計化 ・ワックスがけの業者委託 ・所見の項目を削る/評価基準を明確に/A~C評価ではない形/所見の言葉を統一 ・時差出勤の実現 ・体育実技研を8月に ・デジタル端末の一元化 ・留守番電話の時刻を17時で統一/録音機能 ・余剰時数0を市内全体で統一する ・授業モデルの公開 ・市として育てたい学力の共有 ・式典の簡素化 ・電子黒板の導入 ・学習状況調査をなくす ・勤務時間の柔軟な運用 ・時程の共有 ・春休み期間を長くとり（4/10~開始へ） ・提出書類をなくす ・一人当たりの持ち時間数20時間を実現（専科・教科担任）

2－3 第2回意見交換会の実施状況

■ 中学校第2回意見交換会（副校長・教頭・教務主任）の意見集約結果概要

- ・「今後、第1回で出されたアイデア等で取り組みたい実践内容は？」、「市内や他都市の実践を校内や川崎市全体に広げるために取り組めることは？」について、「校内」、「中学校区・行政区内」、「市全体（校長会、研究会等）」に分けて、参加者がワークシートに記入しました。

校内	中学校区・行政区	市全体（校長会・研究会等）
・時数・教育課程に関することは独自で対応可能 ・発想の転換・リスキリング（職員の考え方のギャップをなくす） ・校長からの働きかけ ・管理職が変わっても変わらない仕組みをつくる ・生徒・保護者へのアンケート ・PTAとの連携（地域行事・パトロールなど） ・指導の見直し（清掃・給食） ・情報共有（教員・保護者） ・行事のやり方の見直し	・学校区で週のコマ数を揃える ・最終下校時刻を早める ・他校の取組の共有・話し合いの場をつくる→どの学校に行っても同じ働き方ができる ・子どもを地域に返すという考え方をする ・地域パトロール等、地域行事への参加の絞り込み ・部活動の地域統合（少ない人数の部活）	・市としての方針を決める ・部活動ガイドラインの徹底/部活動現地集合・解散/地域クラブチームの掘り起こし ・顧問を希望制に ・市総体・連合文化祭についての見直し ・留守番電話は市内で統一したい（8:15～16:45） ・デジタル端末の一元化/採点ソフトの全市採用 ・学校のデータベースをつくる ・WBGTを統一し、ガイドラインをつくる ・調査はシンプルに、文書少なく ・業務の外部委託（庶務・管理関係の業務を教員から切り離す） ・時差出勤の自由化・勤務時間の柔軟化

2 - 3 第2回意見交換会の実施状況

■ 小学校第2回意見交換会（校長）の意見集約結果概要

- ・「4つの対応の方向性」に基づいた施策等について、「学校裁量で」、「中学校区・行政区内」、「市全体（校長会、研究会等）、市教委の協力」に分けて、参加者がワークシートに記入しました。

	学校裁量で	中学校区・行政区内	市全体（校長会、研究会等）市教委の協力
施策① 教育課程の編成による創造的な余白づくり（時程など）	・朝の会/帰りの会を短縮→健康観察に/もっとGIGAを活用する ・連絡帳を書かない ・開門時刻を遅くする ・勤務時間8:10～16:40（勤務時間を早める） ・午前5校時（1～2年生を帰せる） 授業開始8:20～12時20分に終わる ・中休みカット/昼休みをなくす ・A・B時程をなくす ・水曜日4時間授業に ・職員会議/PTAで方針を共有する ・月曜日オール5時間 ・行事時数を教科時数へ ・清掃の回数を減らさず、外部委託を視野に ・研修日/事務処理日の設定 ・短縮時程の有効活用 ・弾力的な時間設定（モジュール/60分/短縮） ・会議回数の見直し/ペーパーレス ・余剰0 ・留守番電話設定時間を17時～に ・45月は5校時で帰る ・学校のカリキュラムマネジメントを重視	・余剰0を共有 ・学校運営協議会に話をする ・掃除週3回	・事前に共有し、広める ・実践事例の学校現場での共有 ・アイデアは出尽くしているので各校でできることを推進することを共通理解する ・1校だけの取り組みでは異動先でまた戻するため、全市的な配置や体制を整えることが重要 ・保護者に対する市教委からの発信 →時間数が減る/帰りが早くなる/過剰な要求をやめるポスターなど ・年間標準時数の削減を/全市的に基本ベースを提示する ・モデル校を創る
施策② 教員の負担軽減・業務改善（チーム制の部分導入など）	・給食に1名加えてローテーション ・1年生へのスタートサポート ・交換授業を広げる（2学年でまとめる）/ローテーション授業の実施 ・日直日誌や1名での戸締りの廃止→各自が教室や担当を決める ・2クラスの学年に学年付き級街を1名配置 ・学校だより/学年だよりの重複部分削除 ・1～3年生の先生に午後の取り出しを協力 ・チームでの保護者対応 ・会議/研修/研究のあり方の抜本的な見直し（対話力/実践力） ・会議や打ち合わせの進行は総括教員で ・朝会（朝の集会）を昼会（昼の集会）へ ・清掃回数を減らす ・支援教育の負担軽減	・実践校の情報共有	・不登校への対応（居場所/人をつけてほしい） ・初任者や臨任がいる学年におけるチーム担任制の進め方ガイドをセンターが示す ・学級数+1人副担任のような配置があるといい →ローテーションがしやすくなる ・定数を増やす ・支援教育のコーディネーターを複数体制にする（地域・専門の手を借りる？） ・留守電を3回線全てに設定し、時間外の保護者面談へ窓口対応へ ・給食ボランティアを各教室に ・サポートノートの分量が多い

2 - 3 第2回意見交換会の実施状況

■ 小学校第2回意見交換会（校長）の意見集約結果概要

- ・「4つの対応の方向性」に基づいた施策等について、「学校裁量で」、「中学校区・行政区内」、「市全体（校長会、研究会等）、市教委の協力」に分けて、参加者がワークシートに記入しました。

	学校裁量で	中学校区・行政区内	市全体（校長会、研究会等）市教委の協力
施策② 教員の負担軽減・業務改善（チーム制の部分導入など）	・画一的ではなく学年の実態等に合わせた方法をつくる ・担任が全部やらなくていい人の配置・教科担任制を進める ・週案の印刷なし ・年間計画を一覧に（GIGAへ） ・PTAトコロボして教科へのサポートを頼む ・ランチミーティング→職員会議の時短 ・校務分掌の見直し/精選 ・職員内の意識改革と共有 ・級外を合わせたチーム対応 ・管理職やCoで対応を引き取り、担任の負担軽減 ・チームにすることで若手が指導しやすくする場面をつくる		
施策③ 児童生徒主体の学びへ転換（学び・行事など）	・学びの転換 ・宿題をなくす ・夏の作品展をなくす（やる子はやる） ・業者テストなし/業者テストに頼らない評価づくり→評価観の転換 ・GIGAを夏休みの宿題に活用 ・負担減の校内研究に（指導案簡略化/検討少なく） ・教師主導のティーチングからコーチングへ ・所見を減らす ・子どものアイデアを行事に取り入れる/子どもが作る行事 ・特別活動を重視した教育活動の創造 ・指導書に頼らない指導へ ・仕組みを支える個々の力量形成 ・1時間で盛りすぎず、単元で考える ・1年生は1ヶ月を仮クラスとして、1ヶ月後に再編成	・よい実践から学ぶ意識改革 ・形だけにとられない実践へ ・地域に応じた単元/学習内容に合わせた講師の共有	・横のつながりを作る/相談しやすい体制づくりへ ・大規模校の教科担任制、専科教員の配置を進めてほしい（クラス数が多く、コマ数が入らない） ・テストパークの導入 ・指導内容の重なりを各教科で合わせた川崎カリキュラムを作成
施策④ （仕組みづくり）	・朝/図書室の開放（地域ボランティアの活用）7:40～8:10 ・時差出勤を可能に（年度途中からでも） ・勤務時間のセレクト性（8:00～/8:15～/8:30～） ・ネコの手の実践に倣う/卒業生保護者の人材活用 ・スポフェスや卒業式を児童主体にし、練習時間を精選する ・地域学習や校外学習に保護者ボランティアが付き添い ・保護者の授業見守り（技能教科/片付け/準備） ・ボランティアコーディネーターが欲しい（申し込みシステムなど） ・手続きが簡単な時差勤務へ	・会議を削る＝休憩時間を減らすの共有	・専科加配 ・入学式の日程移動（4/10頃） ・学校閉庁日の追加 ・外部ボランティアの活用 ・わくわくプラザとの連携 ・①～③を実施するための実践事例週ガイドブックを作成して示す ・不登校支援 ・地域行事への参加への対応をなくしていく ・パレドの簡略化

2 - 3 第2回意見交換会の実施状況

■ 小学校第2回意見交換会（校長）の意見集約結果概要

- ・「4つの対応の方向性」に基づいた施策等について、「学校裁量で」、「中学校区・行政区内」、「市全体（校長会、研究会等）、市教委の協力」に分けて、参加者がワークシートに記入しました。

	学校裁量で	中学校区・行政区内	市全体（校長会、研究会等）市教委の協力
その他（負担感の軽減など）	・夢教育 水泳講師を令和7年度から（地域のスイミングスクール） ・学級/学年事務の軽減 ・定型的な処理の自動化 ・保護者対応のプロへの委任 ・会計業務の負担軽減 ・保護者対応への時間の疲労感が強く、研修方法も分からない ・地域行事への不参加 ・業者への支払いは、業者と保護者でやり取り ・時間を明確にする ・全員が自走する/よりよく働こうとする意識を高める ・職員室の席替え ・チャレンジワークスさんへの依頼 ・学校の取り組みをコミュスクに説明する	・地域教育会議などの会議の夕方開催をなくす →コミュニティスクールへ統合も検討	・zoomで懇談会/学校説明会/報告会をハイブリットに ・アプリがあるため、チラシ配付の依頼はやめる ・周年行事副読本は業務委託、夢予算で補填可能に ・保護者の相談役が必要 ・プールの民間委託（非常にありがたい） ・放課後相談窓口の設置→退職校長など（担任を矢面に出さない） ・地域行事に対して市教委から出席不要の発信をしてほしい ・現金を扱わないシステムづくり ・小学校カウンセラーを設置 ・週案提出をなくしたい ・日直→各階ごとの施錠→セコム ・外部委託した予算を継続して欲しい（切られるとショックが大きい） ・ボランティア募集アプリの作成やおすめを共有 ・副校長配置 ・できることは業者に委託

2 - 3 第2回意見交換会の実施状況

■ 中学校第2回意見交換会（校長）の意見集約結果概要

- ・「4つの対応の方向性」に基づいた施策等について、「学校裁量で」、「中学校区・行政区内」、「市全体（校長会、研究会等）」、「市教委の協力」に分けて、参加者がワークシートに記入しました。

	学校裁量で	中学校区・行政区内	市全体（校長会、研究会等）市教委の協力
施策① 教育課程の編成による創造的な余白づくり（時程・放課後活動など）	・年間時数/週時数の見直し（週28コマなど） ・授業を短縮し放課後の時間をつくる（17時下校へ） ・部活のない日を月に3回は設定 ・部活動の季節ごとの活動時間見直し ・清掃時間短縮/回数削減 ・夏休みの勤務時間の工夫 ・モジュールの積極的な導入 ・朝と帰り学活を昼に行う確認のみにする ・50分→45分（質の向上へ）	・登下校の見守りについてを地域単位で相談	・部活における大会の平日開催 ・50分授業→45分 の一律実施 ・5時間授業を増やす（夏休み期間短縮） ・夏休みの勤務時間の工夫 ・1コマ45分が可能な根拠を全体に示す ・事例を全市で共有する
施策② 教員の負担軽減・業務改善（チーム制の部分導入など）	・分掌のプロジェクト化 ・打ち合わせ精選 ・一人一人に合わせた勤務時間の設定 ・チーム制導入（担任・顧問・授業） ・教師一人の持ち時数を減らす ・残業の必要/不要を判断、意識改革を行う ・部活動の外部指導員	・採点ソフトや時程などの「具体的な取り組み」の共有	・予算配当 ・部活動ガイドラインの全校徹底 ・部活動に地域/保護者が積極的に協力できる体制づくり ・好事例を校長会で後押しをもらう ・試合の削減（特に協会の試合）
施策③ 児童生徒主体の学びへ転換（学び・行事など）	・生徒主体で考える行事 ・体育祭の平日実施 ・GIGAの校内研修 ・校外行事（大会等含め）への参加見直し		・部活の扱いについての見直し ・評価/評定の市共通のライン提示
施策④ （仕組みづくり）	・それぞれのペースで仕事ができる環境づくり ・分掌の見直し ・放課後活動の保護者/地域見守りの協力依頼	・登下校の見守り	・PCの持ち帰りあり（PCのオンオフで勤務時間を管理） ・在宅勤務ができる仕組みにする ・時間単位取得やバレットの期間を柔軟にした振替が取りやすい制度 ・時間外手当 ・地域との業務（時間外）を減らすための発信 ・事務員業務の平準化
その他（負担感の軽減など）	・ワックスがけを外部で ・行事の平日開催 ・学校の時間を保護者/地域へ発信 ・期間限定でもまずやってみる	・地域会議の出席について、区で話し合っ方針を決める	・人員の確保 ・教員以外の人員確保（管理校務員・給食配膳補助員など） ・難しい保護者対応を行う第三者機関 ・清掃業務の外注 ・調査文書の削減 ・川崎の魅力をもっと訴える ・女性管理職が多いところを魅力として訴える

2－4 若手教員との意見交換会

趣 旨	若手教員との対話から、その困り感や働きたいと思える環境とは何かについて把握等
第1回（2024年 8 月 6 日）	2 校目異動者研修対象者（川崎区）36名 教育委員 4 名参加
第2回（2024年 8 月29日）	初任者研修対象者（幸区）47名 教育委員 3 名参加

■ 2 校目異動研修対象者（川崎区）の集計結果（その 1）

項目	件数	困り感や意見等
役割分担の適正化・外部人材活用	28	水泳授業やプールの管理を外部にお願いしたい/プール学習は負担に対する効果が薄いので廃止を。熱があっても休めません。プールに入りました・・・/健康診断の入力をやってほしい/（部活動の）外部指導者の充実/外部講師や保護者の部活動への活用/部活動は外部へ（任せるか）、やりたい人だけやったらよい/クラブ活動・部活動など担任ではなく、地域の方など外部機関に依頼できないか/部活動の引率を外部指導者がいるのに教員が対応する。中学生なのに教員の引率は必要なのか/（部活動の遠征の）現地集合、現地解散（をしたい）/部活動の生徒引率（が負担）/市総体の縮小化、外部委嘱を進めてほしい/給食主任などの（教員がやらなくてもよい）業務が多い/清掃、プール、施設管理は外注でもできる仕事/ワックスがけ、エアコン清掃など他でできる人がいたらうれしい/（大変だと思いますが）事務支援員さんを導入してほしい/事務支援員を増やす（入力関係等）/多様化する心身の問題に対する人材不足/専科加配が理科支援員（を増員してほしい）【再掲】/学年に教員またはボランティア+ 1 名（にしてほしい）【再掲】/空き時間確保のため専科や支援員の配置（をしてほしい）【再掲】/電話を受ける人が欲しい/学年会計を専門の方をお願いしたい/会計や出席簿などの事務作業の委託化/教員の人数の少ない学校の校務分掌の多さを軽減/（特別）支援（学）級の（就学）奨励費を家庭から委員会へ（としてほしい）。（教員の負担が大きい）/お金関係の仕事の負担（が）大。役所をお願いできないものか・・・/会計などの事務作業をする人の配置（をしてほしい）/SNSトラブルなどを別窓口で扱ってもらえると良いなと思います
勤務条件・休憩時間	16	いざというときに休みにくい/育児短時間勤務が入学まででは短すぎる/変形労働時間制の導入（週に 1 ～ 2 回 8 時間 4 5 分勤務にして、その分を夏に（短縮する））/（仕事と）子育てとの両立/健康で余裕をもって生徒と学校生活を送りたい/ 8 時 3 0 分から業務開始だが、8 時には子どもが来ているので、（子どもが来る時間を）遅らせてみる/ 8 時 5 分に昇降口が開くが業務（の開始）は 8 時 1 5 分から/年休をいつでもとれるようにできたらうれしい！長期休業（期間）以外は休みにくい・・・/登校時間 8 時だが勤務時間は 8 時 3 0 分（とずれている）/（勤務時間外の勤務の）振替の融通（をやりやすくしてほしい）/会議が休憩（時間）に重なることがある/（勤務時間外の勤務の）振替がもっと使いやすくなるといいです！/年休か子どもの看護休暇を増やす/育児との両立/時短勤務の使い勝手が悪い（週 5 日 1 6 時までとか）/「育児時間」（1 6 時 1 5 分退勤）を申請しているが帰れない

2 - 4 若手教員との意見交換会

■ 2校目異動研修対象者（川崎区）の集計結果（その2）

項目	件数	困り感や意見等
年間スケジュール・時程	11	長期休業の延長/休み時間の削減/ 5校時（(月)(水)(金)） 6校時（(火)(木)） /年度初めが早すぎる/水曜日は1 3時下校など、授業時数を週単位で見直しても良いのでは？ /年度初め・終わりをもう少し幅広くとりたい/（授業時間の）余剰を取りすぎない。（十分な授業数を確保できているのなら） 3月から5時間などにする/（三者）面談はすべて希望制（にしてほしい）。（来たくない保護者にいるのに、すべての児童と面談する必要はない） /授業時数が多い。勤務時間内に（仕事を）収めるには削減が必要/（学校）行事をやりすぎない、教育目標を達成できれば良い/授業時間数（を）減らす
授業・教材研究・校務分掌	10	授業に集中できる環境づくりを！ /自己の学びに充てる時間が少ない/校務分掌（特に会計）で授業まで手が回らない/教員の年齢や立場によって負担が大きく異なっている/終わりが無い授業準備/教員間での仕事の分担が均等ではない/学校ごとの（校務分掌のやり方の）システムが違う（雰囲気が違うのは仕方ないが、やることややらないことが違い過ぎると一つ一つが負担） /日替わり担任 o r 週替わり担任にしてほしい/校務分掌の見直し（をしてほしい）
給与・手当	9	特殊勤務手当が安すぎる（時給1,000円以下って何ですか） /特殊勤務手当の時給が少なすぎる（最低賃金の3分の1） /残業代を出してほしい（会議、保護者対応などだけでも） /勤務時間に対する給与（が合わない） /担任は少し給料を増やしてほしい/時間外手当をUP（してほしい） /歩合制のような仕組みの導入（行事や担任、責任ある立場などを任されたら給料に反映） /給料UP（してほしい） /給料アップ（してほしい）
地域・保護者・校外の対応	9	地域の活動に駆り出される（お神輿、盆踊りなど） /保護者対応が多すぎる/放課後での児童トラブルは窓口を作してほしい/放課後の学校外でのトラブルや保護者対応の窓口（を設置してほしい） /時間外の保護者対応の軽減/生徒の校外（放課後）のトラブルの指導は（教員が対応するのは）おかしい/地域パトロール（は負担） /祭礼パトロールは教師の仕事！？ /放課後のトラブルの窓口（の設置）
部活動	6	部活動の時間が負担である/運動部の審判のライセンスは自費で取得だが、希望する人にもライセンスを取得させる/運動部担当は希望制にする/部活動指導（初めての指導するためのルールなど・・・） /土日の部活動対応の軽減/部活動に対する考え方の統一性（を図ってほしい）（やりたい人とそうでない人の考えの差からやりづらい） /（部活動の）ガイドラインを守らせる（「原則」が広義すぎ（学校間で差が生じている））

2－4 若手教員との意見交換会

■ 2校目異動研修対象者（川崎区）の集計結果（その3）

項目	件数	困り感や意見等
学級編制		5クラス編制が多いので、もう少し少なく編制したい/支援級の担任をしています。在籍児童の数に応じて教員を配置するのではなく児童の実態に応じて教員を配置してほしい/1クラス42人生徒がいる、35人学級にしてほしい/1クラス30人（学級にしてほしい）/1クラス25人以下（学級にしてほしい）
全般		3クラス数が少ないと教員数も少なくなり、業務量が増える/相談相手が限定されている/小規模（校）のためか（校務）分掌の兼任が多い
調査・会議・研修		3無駄な会議（が多い）/不祥事防止研修の見直し/会議のスリム化→本当に必要な会議なのか？/調査書等の簡素化をしてほしい
ICTの活用		2文書の電子化が負担につながる→家庭へ提出を求める文書が結果的に紙ベースになっている/テストを紙ベースからクロームブックへ（変更）
施設・設備		2体育の授業の暑さ管理が厳しいので、体育館に冷房をつけてほしい/（全）教室（に）エアコン（を設置してほしい）
情報機器		2（特別）支援学校はiPad、小中（学校）はクロームブックなので統一したい。iPadでは打ちにくかったりアカウント登録が大変です/NASやC4t hなど情報の保存先がバラバラ（なので）、一元化（一本化）できないか
その他		2小学校の話ですが、専科はありがたい一方、担任裁量の時間が減るので国語や算数の学習が遅れてしまうのが悩み・・・/音楽専科と（特別）支援（学）級の兼務業務が中途半端になってしまう

2 - 4 若手教員との意見交換会

■ 初任者研修対象者（幸区）の集計結果（その1）

項目	件数	困り感や意見等
役割分担の適正化・外部人材活用	27	教員以外の仕事（が多い）/事務的な仕事（が多い）/学校事務職にどこまでの書類を任せていいの（児童個人票、健康記録カード等）/学校事務職員の仕事の領域があいまい/部活動の引率（で）勤務時間が過ぎる/部活動の外部委託化/（子どもの）作品の掲示をする人が欲しい/テストの丸付け、プリントチェック（をする人が欲しい）/年度末のワックスがけ（が負担）/ワックスがけ、校庭の砂の補充も教員が対応？ 学校用務員か外部（で対応できないか）/学校の戸締りやごみ捨て等の週番の仕事（が負担）/コピーなどをお願いできる人がほしい/プール清掃やプールの用意（が負担）/プールの管理（が負担）/プール指導・管理は外部へ/管理・指導など大変なのでプールは外部へ/プールの管理を外部に委託/給食をゆっくり食べる時間がない/食事がまともに取れないため給食時間を外部に（任せることはできないか）/庶務会計等の校務分掌を外部に委託/会計業務をなくす/生徒のお金のやり取りの廃止/ユニフォーム代、雑費などの会計処理の部活動に関する事務作業（が負担）/お金の管理を外部へ/会計の仕事（が負担）/大学生でも良いから2クラスに1人の副担任（が欲しい）/支援教育コーディネーターを外部人材もしくは専任化（できないか）【再掲】
授業・教材研究・校務分掌	25	教材研究の時間（が足りない）/教材研究の時間がない/教材研究（の時間が欲しい）/授業準備の時間（が少ない）/教材研究の時間の確保/会議が長引いたり初任者研修もあったり、教材研究の時間が取れていない/体育の先輩教員の授業準備への早朝からの対応（が負担）/グラウンドのライン引きやプールの塩素測定（が負担）/長期休みの日直（が負担）/（子どもの）実態に対する手立て（に悩む）/（子どもの）個々への対応（に悩む）/お休みの生徒（への対応）/学年の先生方との進行の差（がある）/校務分掌（が多い）/行き渋りのある子どもへの対応（に悩む）/テストが大変/個別最適な学びの実現（が必要）/全体指導と個別指導のバランス（に苦労）/校務分掌（が多い）/ノートやプリントをチェックしコメントを入れる時間がなかなか取れないため、家でゆったり休日に学校でゆったりすることがある/週案を簡略化する/高学年の積極的な交換授業の実施/学校日誌（が負担）/大変だけどやっているとよかったものは放課後の補習（時間外も含む）/盛り上がってほしい所でいい反応が返ってきた時（は充実している）

2 - 4 若手教員との意見交換会

■ 初任者研修対象者（幸区）の集計結果（その2）

項目	件数	困り感や意見等
全般	20	学級経営、雰囲気作り（に苦労している）/経験のない国際教室の運営（が負担）/子どもが喧嘩したときに話を聞いて解決する時間がない/初任者が担任をもつのは負担が大きいのではないか/出張が多い/（先輩職員が）当たり前とされていることが意外にわからないときがある/（職場の）人間関係が苦手/（職場）環境が良くない/（職員間の）情報共有化（が必要）/余裕がない/（職場での）言葉が何を指しているのかわからない/（生徒との）関わりは楽しい/毎日、変化があって楽しい/校種を超えた関わりを増やす/担任と副担任の業務量に差がある/初任者の担任配置の廃止/定時を過ぎてからしか自分の仕事ができない/知識がある人に任せきりで校務分掌の業務量が偏っている（進路指導などの外部対応）/生徒指導や防災訓練などの大切な業務のマニュアルがないので、方向性が統一できない
年間スケジュール・時程	17	1～4時間目の休み時間がないため、せわしない/チャイムがならないから、子どもの気持ちが切り替えにくい/4から5月（が特に忙しい）/6時間目を少なく（して欲しい）、子どもの集中がもたない/空きコマが意外と少ない/空きコマがほぼない/週1日全日空きコマ/勤務時間内の研修はありがたいが、フリーで仕事ができる時間が欲しい/1日2時間の自由時間があれば、残業はぐっと減る！！/担任を持っていると空きコマでも（対応することが多いので、）勤務時間内に（仕事を）おさめるなら、持ちコマ数の調整（が必要）/テスト作成や成績（処理）など勤務時間内で終わらない/40分授業を行う/学校行事は週休日でやってほしい/1・2時間目と3・4時間目の間に休憩時間が欲しい（5分休憩）/水曜日を休日に（できないか）/休業期間と通常時の負担の違いをなくす/冬期休業日（は）5日欲しい
その他	13	特殊勤務手当の入力が面倒/イントラが面倒くさい/旅費の復命の入力が面倒くさい/長時間勤務の報告（が負担）/ノートに貼ったり押すスタンプやシールも自己負担/赤ペンの消費量が多くて毎回100均で買っています。仕事で必要なものは自費？/子どもが学校に置いていく教科書等を保管する棚（ボックス）は自費負担/指導署（朱書き）が（職員の）人数分欲しい/初任者は1年間スーツ通勤/国旗・市旗・校旗を掲げてほしい/食育であるのなら給食の食費は無料/川崎市バスへの優遇措置があるとよい/研修図書費の増額
勤務条件・休憩時間	12	休憩場所・時間の確保/休憩がとれていない/休憩時間をなくして打ち合わせや会議等の開始時間を早める/45分休憩をとると残業時間が伸びるため、誰も取れない/休憩時間がとれない/年休がもっとほしい/時間割によっては時差勤務をOKにして欲しい/勤務地が遠い、1時間ちょっとかかる/車通勤で駐車場代も交通費として出して欲しい/2年目からしか自転車・バイク等で来れない/旅費が非現実的/若手教員寮の復活

2 - 4 若手教員との意見交換会

■初任者研修対象者（幸区）の集計結果（その3）

項目	件数	困り感や意見等
人材確保	12	職員の人数を増やして欲しい/人員の確保（教員一人当たりの児童数を減らす）/専科の人がいたら宿題や丸付け（の）チェックができる/専科（が欲しい）/理科、外国語や音楽などの専科の配置/各校一人など道德の専科の先生（を配置することはできないか）/T2の先生がほしい、病気で休めない/産休に入った先生の代わりの先生が来ない/（特別）支援（学）級などに人員の確保/支援教育コーディネーターを外部人材もしくは専任化（できないか）/複数校勤務の応援教員の配置/35人でも大変で、授業間のトイレや水分補給もできない
部活動	10	部活動は楽しい×2/部活動は楽しいけど休みがない/部活動が18時までのためすでに勤務時間を過ぎている/部活動を16時30分までとする/部活動のかけもち（が負担）/陸上部の大会が多い/部活動の配置で、経験者なのに違う部活動（持っている）、入れ替えれば揃うのにとこのがある/部活動なのに旅費が出ない場合がある/（職員が）希望しない土日部活動の廃止
施設・設備	7	学校設備の改善/エアコンやWi-Fiの効き（が悪い）/エアコンの効きが悪い/体育館や武道場へのエアコン整備（をしてほしい）/更衣室にエアコンが欲しい。学校が古くてエアコンの効きが悪い/ICT（タブレット端末）の動作が重い/GIGA端末がこれだけ使われているのにWi-Fiが付いてない教室がいまだにある
成績処理	7	評価の基準（に悩む）/評価の仕方（に悩む）×4/中間成績の紙媒体の廃止/小学校の（前期の）のびゆく姿はなくなったけど、個人面談はあり面談資料を作るよういわれているので、なくした意味があるのか疑問
ICTの活用	6	宿題などのGIGA端末活用/資料の量が多くて机の上が紙だらけだが、捨てることになるのももったいないと思った/合唱コンクールのCDをすべてGIGA端末にしたい/会議資料はペーパーレスにして欲しい/対面の必要のない会議や研修はオンラインにして欲しい/ホームページの活用
調査・会議・研修	6	職員会議（が多い）/調査が多い/休憩時間に面談や会議が入ることがある/指導教員がついていてくれるうちに初任者には採用された教科の授業を持たせて欲しい/初任者研修は手厚いが、教員の負担になってはならない/動画の研修のレポートが多い
地域・保護者・校外の対応	4	夜遅くの保護者対応（が負担）/夏祭りのパトロール（が負担）/個人面談で話すこと（が負担）/子どもの放課後に起きたトラブルへの対応（が負担）
学級編制		2一学級当たりの人数を減らす（25から30人学級）/1クラス35人は多い、2人いるとやりやすいと思った。
給与・手当		2残業代を増やして欲しい/部活動の特殊勤務手当がもっと欲しい

3

成果と考察

3－1 意見集約リスト

3－2 教育課程の編成による創造的な余白づくり

3－3 教員の負担軽減・業務改善

3－4 児童生徒主体の学びへ転換

3－5 仕組みづくり・環境整備など

3－6 取組の進め方の考察

3 - 1 意見集約リスト — 小学校①

- 意見交換会で出された取組・意見を「やりたい」「すでにやっている」で集計し、「教育委員会による制度設計・ルール設定の要否」「校長会主導での実施が望ましい事項」「各学校で取り組むことができる事項」等に分類を行いました。
- 短期的には、学校裁量で実施できる1～3の時数の見直しや40分授業等を実施し、中長期的には、教育委員会事務局と連携して、11のチーム・学年担任制や25の子ども主体の学びへの転換に取り組めます。
- 33の柔軟な制度運用や37の発出文書の削減などは、教育委員会が主体となって可能なものから早期に実施します。
- 31～41の外部人材の活用や外部委託などは予算が必要なものであることから、優先順位をつけて中長期的に取り組めます。
- 特に、学校徴収金や、端末の集約、水泳授業などは、教員が負担感を感じている業務であり、優先的に取組を進めていきます。

No.	大分類	小分類	取組・意見	やりたい	すでに やっている	教育委員会 による制度設 計・ルール設 定の要否	校長会主導 での実施が 望ましい事項	各学校で取 組むことが できる事項
1	1 教育課程の編成 による創造的な 余白づくり	時数見直し	①教科の時数見直し・カウント 学活年間35回・行事・共生・共育をなるべく教科や特別活動にカウント ②年間授業時間数の削減（余剰0へ）	12	10	要		○
2		週時数・シーズン制・40分授業	①6時間授業の日を減らす 週2日5時間授業、週3日6時間授業（例：水・金は5時間授業）、6時間授業 の日を減らす（月・木は5h） ②シーズン制 4・5月は6時間授業なし、5月は1年生4時間、4月は全学年5時間 夏季シーズンは5時間（7～9月） 6時間授業は後期から 7月はオール4時間or5時間（サマータイム） ③授業時間/1日の授業数 40分授業の実施（年間・シーズン制・午後のみなど） 午前中のみ授業→午後は研究・研修・会議・事務処理・成績処理・クラブ委員会 クラブ活動を45分で実施（年11回）	32	12	要		○
3		モジュール	モジュールの実施・カウント（週2～5回）→5時間の日を増やす/国算・外国語・学 習タイム モジュール時間の工夫（20分・45分と合わせて60分で）	5	35	要		○
4		日課（登校時刻）	登校時間と現実のギャップをなくす/登校時間を遅らせる（8:00→8:10）/担任以 外が見守る	0	1	要		○
5		日課（下校時刻）	6時間目終了時刻を早める（14:45・14:30）/時程変更・短縮時程（例：水金は短 縮と決める・水曜日は年間4時間・8:30 1枚時スタート、12時35分下校など）・午 前中に5時間を行う	15	15			○
6		朝の会・帰りの会・集会・休み時間	朝の会・帰りの会の省略 朝会・全校集会の縮小・月に1回・曜日を变える（月→金） 休み時間削減	9	3			○
7		清掃	清掃指導を減らす（週1～3回程度）・なくす（担任以外が見守る形） 清掃場所を教室のみ→その他は用務員・地域・保護者・業者へ 清掃方法の見直し（朝清掃・掃除機・モップの活用）	10	8	要		○
8		行事の見直し	運動会をもっと気軽なものに（記録会・フェス・見栄えを重視しない）・周年行事の簡 略化・行事の見直し（学習発表会の廃止・大掃除・遠足・集団下校・運動会の時 期）	4	5			○

3 - 1 意見集約リスト — 小学校②

(前ページ続き)

No.	大分類	小分類	取組・意見	やりたい	すでに やっている	教育委員会 による制度設 計・ルール設 定の要否	校長会主導 での実施が 望ましい事項	各学校で取 り組むことが できる事項
9	2 教員の負担軽減 ・業務改善	保護者対応（留守番電話・電話 対応）	留守番電話18時→17時へ（16:45を目指す）/ディスプレイ表示/通話の録音機 能（この通話は品質向上のため）	5	6	要	○	○
10		保護者対応（出欠席・連絡）	ミマモルメの入力 8時15分までに ミマモルメやロゴフォーム（お手紙なくす方向で・・・）での連絡・連絡帳はGIGA端末で tetoru・スグールの活用 学年だより廃止・学校だよりに一本化/学校だよりと学年だよりを表裏で	4	7		○	○
11		複数教員での授業・学校運営	教科担任制・交換授業・教科ローテーション・合同授業 チーム・学年担任制	10	17	要	○	○
12			各学年クラス+1の教員にし担任の負担を減らす	3	2	要		
13		給食・掃除指導のローテーション	給食は全体で食べて先生はローテーションで指導→ランチミーティング/掃除の指導を ローテーション	7	2			○
14		専科	専科の拡充・空き時間でTTや個別指導/担任外の大人が授業を行い担任の授業 時数を減らす(担任の空きコマを増やす) 例：理科2h・音楽2h・書写1h・図工2h→7hの余白 専科（音・体・英）の空き時間に個別の児童指導	5	5	要		
15		休憩時間・創造的余白・ノー残業 デー	休憩時間の確保 15:15-16:00 職員の放課後のときめきタイム ノー残業デーの回数を増やす	3	6		○	○
16		学校徴収金・会計業務	教材の支払いを保護者が行えるようにする/保護者が自分で直接 購入・学校徴収 金 未納者→保護者が振替 銀行をネット銀行へ（ネットバンキングで完結）	8	9	要	○	
17		学校公開・授業参観・面談	参観・面談の回数の削減(面談をなくし、教育相談へ) 学校公開・授業参観の見直し・土曜参観 平日実施	3	3		○	○
18		会議・打ち合わせの精選	打ち合わせの形の見直し（月2回・事前に読む時間を5分つくる） 会議を精選・時間設定を固定し、端末を活用する/職員会議話し合いに必要なとき だけに(毎月じゃなくてもいい) GIGAの活用（会議・部会会議・打ち合わせ）	0	13		○	○
19			全市で集まる会議を減らす	2		要	○	
20		日誌	日直・日誌をやめる/日直の戸締りなし	4	2		○	○
21		デジタル化	事務業務のデジタル化(図書・在籍関係)	0	1	要		
22		週案	週案の毎週提出なし	0	1		○	○
23		業務改善	年間反省→月間反省ですぐに改善・日常的に改善	0	2			○
24		GIGA（業務効率）	GIGA端末活用によるDX化（職員室サイト・Googleアプリ・クラウド化・クラスルーム やチャットでの情報伝達） ペーパーレス化（GIGA） GIGAで夏休みの課題 プリントなしでとても楽 GIGAの活用（ワークシート・教材の共有・校内知恵袋） データ保管場所の一本化 採点を自動化(GIGA等)や外部業者へ委託する	6	16	要	○	○

3 - 1 意見集約リスト — 小学校③

(前ページ続き)

No.	大分類	小分類	取組・意見	やりたい	すでに やっている	教育委員会 による制度設 計・ルール設 定の可否	校長会主導 での実施が 望ましい事項	各学校で取 り組むことが できる事項
25	3 児童生徒主体 の学びへ転換	学び方・授業のあり方	自立型学習者の育成/自己調整型の学びへ（課題解決・やりたいことを深める・苦 手に取り組める） 学びを選択する（GIGA・ドリル・先生と丁寧に取り組むなど） 教員主導から子ども主体の授業へ/学び方を教える授業/段階的な主体性を養う指 導 いわゆる「台本型」「劇場型」の授業からの脱却 基礎学力の定着＝一律の教材で効率的に学ぶ/協働的な学習＝様々な方法で主 体的に学ぶ 子どもたちの力に合わせた、ムリに押し上げない学び 自律のためのUDL（ユニバーサルデザインforラーニング）を進める GIGA端末での複線型授業 オンライン日・オンライン授業の活用（例：算数の学年オンライン授業）	7	5	要	○	○
26		評価のあり方・成績表	テストの廃止/のびゆすがたをなくす/◎の評価をなくす→日常で見とる評価のあり方・ 業務軽減 川崎学力テストは負担になっている	5	2	要	○	○
27		宿題	一律の宿題をなくす(内容を自分で選ぶ・期日を各自調整) 宿題のGIGA化・ミライシード活用 夏の宿題なし（展示も含めて）	4	2		○	○
28		支援	塚越の専門の先生増やして 支援級は川崎市の強み/別室登校への支援の手	0		要		
29		研究のあり方	教員の教材研究も「遊ぶように学べる楽しい時間」に/対話を中心とした校内研の仕 組みづくり/共通言語をつくる/見合う・教員のアップデート（研修）の機会の確保/指 導・評価 校内研究の考え方を変える（自主研修・若手の研修・指導案のあり方・実施の仕 方・研究授業から日常の報告へ）	2	11		○	○
30		行事のあり方	運動会など子ども主体の行事（係・スケジュールなど）	1			○	○
31	4 仕組みづくり・ 環境整備など	保護者・ボランティア・地域連携	保護者対応を外部にお願いできないか スクールロイヤーなど/地域の問題等は地域へ 地域との連携の仕方（土日・平日夜の会合減） 地域Coの設置 窓口は教務 地域の校内見守り 施設開放業務を地域へ	14		要		○
32			PTAとの連携・ボランティア化 保護者ボランティアの活用（プール・園芸・清掃・校外学習の引率を先生+保護者ボ ランティアでetc.） 保護者協力の依頼、水泳ボランティア、校外学習引率、指導以外、トイレ指導 （事例：水泳ボランティア募集70名参加）	7	11	要		○

3 - 1 意見集約リスト ― 小学校④

(前ページ続き)

No.	大分類	小分類	取組・意見	やりたい	すでに やっている	教育委員会 による制度設 計・ルール設 定の要否	校長会主導 での実施が 望ましい事項	各学校で取 り組むことが できる事項
33	4 仕組みづくり・ 環境整備など	働き方・勤怠管理	勤務時間の弾力化・退勤時間をフリーに 振替パレットの振替・時間調整期間の弾力化 時差出勤・労働時間・勤務形態の柔軟化 年休をとりやすいゆとりある補教体制の構築 振替表をホワイトボードで分かりやすく 出張のオンライン化	12	1	要		○
34		事務支援員・用務員・校務員	事務支援員さんの活用 用務員・校務員を複数校で増やす	1	2	要		
35		特別支援サポーター	特別支援サポーターの回数を増やす	3		要		
36		端末の一本化・フォーマット共有	校務PC・GIGA・イントラの統合 校務支援システムで出欠調査・名簿をまかなう 週案のスプレッドシートのフォーマットを市で作成 C4thに流し込むデータの共有	11		要		
37		提出文書	提出文書の削減	2		要		
38		清掃	ワックスがけ掃除を業者に 清掃員の導入（ボランティアも可）	9	1	要		
39		水泳・外部委託	水泳指導は専門家に任せる・5・6年 水泳外部指導 →専門家や地域に学ぶ機会にもなる	11	1	要		
40			プール管理の外部委託・用務員が担えるようにする	1		要		
41		施設管理・エアコン	設備管理の改善 エアコンフィルター せん風機→業者 エアコンが効かない/壊れている/ついていない教室も 空調の27度設定はおかしい、自由に下げられるようにしたい	0		要		
42		給食事務	給食事務作業を減らす	0	2	要		
43		初任者研修	採用合格者へのGIGA研修	0		要		
44			初任者1年間は副担任	0		要		
45		学校徴収金・会計業務	会計の外注化/事務員が行う/教員が現金を取り扱わない PTA会の徴収をPTAに任せたい ※就学奨励費を含む	9	6	要		
46		会計の裁量権	学校で自由に活用できるお金がほしい・人件費等（配置されない職員分の費用など）	2		要		
47		その他（クラス替え）	半年でクラス替え	2			○	○
48		その他（出張）	出張時に自分の自転車で行けるようになってほしい （出張時間に間に合わないため補教の教員が入る必要がある、出張や研修を諦める必要がある）	3		要		
49		その他（長期休業期間・新年度準備）	春休みを2週間程度に （新年度開始に余裕をもてるスケジュール）	0		要	○	

3 - 1 意見集約リスト — 中学校①

- 意見交換会で出された取組・意見を「やりたい」「すでにやっている」で集計し、「教育委員会による制度設計・ルール設定の要否」「校長会主導での実施が望ましい事項」「各学校で取り組むことができる事項」等に分類を行いました。
- 短期的には、学校裁量で実施できる2、3の時数や日課の見直し等を実施し、中長期的には、教育委員会事務局と連携して、14のチーム担任制や18、19の部活動改革、22の学び方・授業の在り方の検討に取り組めます。
- 29の柔軟な制度運用や45の発出文書の削減などは教育委員会事務局が主体となって可能なものから早期に実施します。
- 31、32、34～36、38～43の外部人材の活用や外部委託などは予算が必要なものであることから、優先順位をつけて中長期的に取り組めます。
- 特に、学校徴収金や、端末の集約、部活動・水泳授業などは、教員が負担感を感じている業務であり、優先的に取組を進めていきます。

No.	大分類	小分類	取組・意見	やりたい	すでに やっている	教育委員会 による制度設 計・ルール設 定の要否	校長会主導 での実施が 望ましい事項	各学校で取 組むことが できる事項
1	1 教育課程の編成 による創造的な 余白づくり	行事の見直し	行事の精選（体育祭や文化祭の短縮や見直し）/午前中に体育祭や行事を実施し、短縮する/行事の準備時間も含め、精選して効率的に行う/宿泊行事・学校行事の削減/行事の平日開催	15	4		○	○
2		教育課程・時間の弾力化	・教育課程の内容を精選して効率化/授業や学習のカウント方法を見直し、無駄を削減/合唱や特別活動を総合でとる ・4月中旬まで4時間授業を進める/月に1回は4校時 授業時間を45分に統一し、効率的に授業を進める ・年間の登校日数を200日程度に調整・閉庁日を増やす/閉庁日夏休み10日間 ・定期テスト5日前から午前授業、午後は学習相談 採点日や作問日の設定を行い、効率的にテスト対応・採点作業の負担を軽減し、最終日の午後は研修を入れない/ 午前中に5コマ授業を集中して行う 午後は部活動や教材研究に充てる/部活動の日は5時間授業にし、午後は部活動に充てる/部活動の日は定期的に早帰りを実施/ 職員会議の日は午前授業のみとする/5時間授業にする	46	38	要		○
3		週時数	朝・帰りの学活時間を短縮・廃止し、授業時間に充てる（朝の学活を5分で行う・帰学活は最終授業終了時～10分間に限定）	1	1	要		○
4		清掃	清掃回数を週2～3回に減らす/清掃時間や回数を柔軟に対応する（簡易清掃の導入）/全員清掃をなくす	10	14	要		○
5		デジタル化	DX化の推進による業務効率化（職員会議や研修のペーパーレス化を推進/オンライン一斉授業の導入など）	0		要	○	○
6		日課（下校時刻）	・授業時間を早め、最終下校時刻を早める/夏の最終下校時刻17:45/登下校指導をしない/勤務時間内に在校等時間をおさめる ・部活動ガイドラインを遵守し、最終下校時刻を管理/部活動終了時刻を早め、勤務時間内に収める/最終下校時刻を17:30に設定	10		要	○	○
7		部活動	・部活動の時間や日数を削減（週3日程度に）/部活動の日数や時間をフレキシブルに設定（週休日の導入） ・朝練を廃止し、放課後の活動に集中 ・再登校を基本的に廃止し、効率化を図る ・部活動の時間を短縮し、70分程度に/部活動を早めに開始し、2時間程度で終了/ノー部活デーを週1～2回設定・月1 ・部活動や行事の時間を柔軟に管理し、勤務時間内に収める ・近隣中学区との合同チーム化を推進する	21	11	要	○	○

3 - 1 意見集約リスト ― 中学校②

(前ページ続き)

No.	大分類	小分類	取組・意見	やりたい	すでに やっている	教育委員会 による制度設 計・ルール設 定の要否	校長会主導 での実施が 望ましい事項	各学校で取 り組むことが できる事項
8	1 教育課程の編成 による創造的な 余白づくり	モジュール	モジュール授業を試行し、効率的な授業運営を目指す	2		要		○
9		持ちコマ数	週の授業持ち時間を減らし、教員の負担軽減	1		要		
10		会議・打ち合わせの精選	会議・打ち合わせの頻度を減らし、効率的に実施/校務支援システムの活用/朝打ち合わせなし	3	1			○
11	2 教員の負担軽減 ・業務改善	採点・効率化	採点ソフトの導入・自動化（マークシート対応含む）/テスト作成の業者委託/ICT支援員さんの来るタイミングでマークシート/定期テスト廃止→単元テストへ宿題のペーパーレス化	13	15	要	○	○
12		市総体	市総体の廃止や開会式の削減 連合文化祭廃止・市総体の取りやめ・秋の大会取りやめ	23			○	
13		事務作業	事務作業日の増設と事務支援員の業務拡充（印刷・配布・電話対応）/チャレンジワークスさん 事務職の業務内容の標準化	5	5	要		
14		チーム担任制	・グループ担任制や学年担任制を導入し、学校生活改善委員会の取り組みを強化する ・教員の役割分担（ミドルリーダーの活用、教科ごとの出勤日設定、担任の月毎ローテーション、分掌、主任など） ・道徳や総合学習のローテーション化と進路業務の軽減/合同授業	10	7	要	○	○
15		デジタル化	会議の軽減と資料のペーパーレス化、企画会の廃止（オンライン共有） 校内情報と授業資料のデータベース化	4	4			○
16		働き方	ノー残業デーとワークライフバランスデーの設定（月1～2回/毎週月曜日）/休憩をとれる仕組みにする	4	4		○	○
17		評価のあり方・成績表	通知表の所見見直し/前期総合と道徳の評価をやめる	2	2		○	○
18		部活動	土日の部活動を教員以外で対応、公的な専門部門の設置/部活動の指導員配置と最低賃金の確保/2名体制	3		要		
19			学校独自の部活動改革と大会への対応見直し/引率の軽減（原則現地集合・解散/スマホで緊急連絡）	16		要	○	
20		役割分担・ローテーション	給食ローテーション	2	4			○
21		面談	面談を夏・冬休みに/参観を減らし保護者が来る機会を増やす（オープンスクールなど） 三者面談の日の部活動16時終了	2	6			○
22	3 児童生徒主体 の学びへ転換	学び方・授業のあり方	・授業の一律化の見直し（合併授業やオンライン授業の導入） ・自由進度学習・対話から始まる特別活動・子どもが主語の授業 ・授業の進め方やネタ、具体的な改善例を年間で共有し、授業の仕方を見直す（例：一律ではなく自由進度学習の導入） ・ノートチェックや小テストの丸つけを生徒に委ね、自主性を促す	6	2	要	○	○

3 - 1 意見集約リスト ― 中学校③

(前ページ続き)

No.	大分類	小分類	取組・意見	やりたい	すでに やっている	教育委員会 による制度設 計・ルール設 定の要否	校長会主導 での実施が 望ましい事項	各学校で取 り組むことが できる事項
23	3 児童生徒主体 の学びへ転換	校則・ルールメイキング	生徒の生活ルールや服装規定の一部を見直し、弾力的に対応する	0	1		○	○
24		宿題	夏休みの宿題をなくし、全体の学習負担を軽減する	0			○	○
25		生徒主体の活動	・生徒会や部活動、行事企画・運営を生徒主体にし、教員はサポート役に徹する ・特別活動や学級づくりを、生徒との対話や話し合いを重視して進める（例：〇〇プロジェクト活動） ・パレットや時間割の再編成を行い、総合の学習の時間やたてわりワークショップを実施する	5	1	要	○	○
26		テストのあり方	・学習状況調査のICT化やドリルを授業に組み入れ、定期テストを単元テストに切り替える ・プリント教材から脱却し、スタディサプリやGIGA・ドリルパークなどの電子教材を活用する ・GIGA端末を活用して、生徒の課題管理をクラウド化し、ICT担当専門の人を1年生につける	7	1	要	○	○
27		学びの支援	・放課後学習機会を確保し、長期欠席の生徒への支援やコーディネーター、学習室を充実させる ・別室・不登校対策の充実と地域ボランティアの活用	0	1	要		○
28	4 仕組みづくり・ 環境整備など	留守番電話	留守番電話の全市一律導入	7	2	要	○	
29		勤務時間・働き方	時差出勤・年休取得の促進 振替・時間外勤務の柔軟化・勤務時間の弾力化 勤務時間をフレキシブルに 振替・半日単位ではなく1・2時間でも可能に	16	4	要	○	
30		保護者・PTA	PTAの縮小とボランティア化	1	1	要		○
31		保護者対応	クレーム対応・電話対応の外部オペレーター化/保護者対応の外注化 PTAや保護者対応も勤務時間内に行う クレーム対応や保護者対応のための研修を設ける バトロールの廃止 地域との連携/校長への依頼を止める	6		要		○
32		デジタル化・文書削減・一元化	市の様々な部署から来る文書をまとめて一元化/文書の削減→GIGAを活用 文書依頼を同一PCで共有/閲覧が各自のPCで GIGAでも個人情報扱える ネットワークの一本化（イントラ・GIGA・KEINS・SAINS） 校務支援システムの機能拡張・拡充（調査・報告）を連動する 時間割作成ソフトの一括導入 GIGAの活用するための専門家の招へい/不具合が起きた時の解決できる人を配置	30		要		

3 - 1 意見集約リスト — 中学校④

(前ページ続き)

No.	大分類	小分類	取組・意見	やりたい	すでに やっている	教育委員会 による制度設 計・ルール設 定の要否	校長会主導 での実施が 望ましい事項	各学校で取 り組むことが できる事項
33	4 仕組みづくり・ 環境整備など	デジタル化・共有	資料のデジタル化 GIGA端末活用によるDX化（職員室サイト） GIGA端末の修正・代替機の充実 教員PCにAIを導入、授業の叩き台、授業課題の問いかけ Wi-Fiを特別教室にも	0		要		○
34		デジタル化・学習調査	市の学習調査・分析までやってもらう	2		要		
35		清掃活動	ワックス掛けを含む清掃の外部依頼/清掃指導の廃止と校務員や外部業者への委託 /清掃活動の外注（要予算）	22	2	要		
36		人員	教員定数を変え、週あたりの持ち時間を減らす 教員の数を増やす/余白づくりのための加配 非常勤講師の時間の拡充 非常勤の先生を柔軟に勤務させたい 学校サポーターへの報酬を上げる 部活動指導者の増員 教職現場で育てた優秀な中堅教員を引き抜かないでください	8	1	要		
37		出張	出張を減らす	0		要		
38		施設管理・設計・エアコン	市の施設を生徒目線で設計する・児童生徒が優先されるように 校舎の修繕関係を区で担当者に任せる/施設設備も民間委託/戸締りを民間に 冷房の整備（特別教室）	4	1	要		
39		研修・チャレンジ	10年後、20年後の教育 新しいことにチャレンジできる雰囲気 職員研修を自主的に空き時間に行えるシステムを構築	2	1	要	○	○
40		業務改善	教頭業務スリム化 & 統一すべきこと統一	0		要	○	
41		給食業務	給食支援 45分（担任の代わり）/給食のみまもりボランティア/給食配膳さんに給食 の見守りを手伝ってもらう 給食事務を全て扱う担当を入れる 給食事務担当者配置/給食業務専門の人をいれる	4		要		○
42		外部委託	学校の警備管理は外注化	4	1	要		
43		水泳・外部委託	プール指導の廃止やスイミングスクールへの委託	3		要		
44		学校徴収金	教科書・お金について 担当の人を置く/会計処理を専門家へ ※就学奨励費を含む	18	1	要	○	
45		提出文書	提出書類の削減	0		要		
46		PTA・地域	PTA・地域会議や行事の精選、夜間巡回・地域パトロールの廃止/PTA活動の縮小 と運営の見直し（時間内実施）/地域教育会議の時間短縮と運営改善/夜間巡 回の取りやめ	12	11	要		○

3-2 教育課程の編成による創造的な余白づくり

教育課程編成について、年間・週・月・日課等で考え、余白を生み出すための週のコマ数や登校日数を今後も検討を進めていくこととしました。

■ 4つの対応の方向性① 検討の視点・要素

- 教育活動における教科時数へのカウントや行事の見直しを行った上での年間総時数を計画し、モジュールも組み合わせた曜日ごとのコマ数や短縮時程を設定します。
- その上で、全校集会や朝の会・帰りの会、清掃、休み時間などの時間や頻度を検討します。
- 最終的には、1コマの時間数も考慮に入れた、季節に見合った年間の教育課程編成となります。

年間

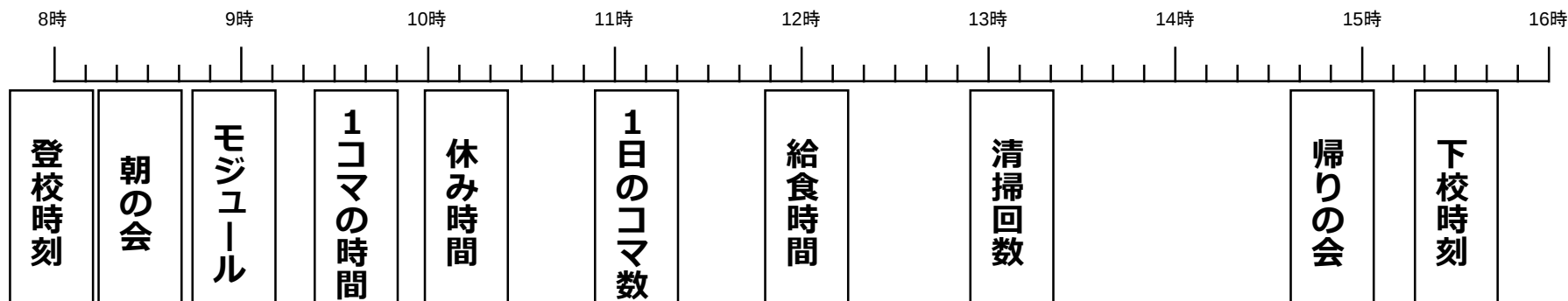
- 年間総時数の見直し（余剰0へ）
- 時数をなるべく教科にカウント
- 行事の見直し（精選・簡略化など）
- 季節に見合った教育課程

週・月

- 曜日ごとのコマ数（5時間授業日）
- 短縮時程・特別時程設定
- 全校集会の見直し



日課



3-2 教育課程の編成による創造的な余白づくり

■ 時数の見直し（小学校）：年間総時数と週のコマ数

予備時数を0にし、行事の精選を行った場合の年間総時数と週の授業時数で登校日数を算出します。

※実際は4時間授業の日や行事等の関係で日数が前後します。

小学校・年間時数	
標準授業時数	1015
共生＊共育	7
クラブ	8
児童会活動	8
予備時数	0
行事	22
	1060

週5時間の回数	45分授業	
	モジュールあり（毎日）	モジュールなし
0回（毎日6時間）	$1060 \div 31.66 = \mathbf{33.5週（167日）}$	$1060 \div 30 = \mathbf{35.3週（176日）}$
1回（6時間4回）	$1060 \div 30.66 = 34.6週（173日）$	$1060 \div 29 = 36.6週（182日）$
2回（6時間3回）	$1060 \div 29.66 = 35.7週（179日）$	$1060 \div 28 = 38週（190日）$
3回（6時間2回）	$1060 \div 28.66 = 37週（185日）$	$1060 \div 27 = 39週（196日）$
4回（6時間1回）	$1060 \div 27.66 = 38.3週（192日）$	$1060 \div 26 = 40.8週（204日）$
5回（毎日5時間）	$1060 \div 26.66 = \mathbf{39.8週（199日）}$	$1060 \div 25 = \mathbf{42.4週（212日）}$

中学校・年間時数	
標準授業時数	1015
共生＊共育	7
予備時数	0
行事	28
	1050

週5時間の回数	モジュールなし	モジュール（2/3）あり	
	50分授業	50分授業	45分授業
0回（毎日6時間）	$1050 \div 30 = \mathbf{35週（175日）}$	$1050 \div 33.3 = \mathbf{31.5週（158日）}$	$1050 \div 30.3 = \mathbf{34.7週（173日）}$
1回（6時間4回）	$1050 \div 29 = 36.2週（181日）$	$1050 \div 32.3 = 32.5週（163日）$	$1050 \div 29.4 = 35.7週（179日）$
2回（6時間3回）	$1050 \div 28 = 37.5週（188日）$	$1050 \div 31.3 = 33.5週（168日）$	$1050 \div 28.5 = 36.8週（184日）$
3回（6時間2回）	$1050 \div 27 = 38.9週（194日）$	$1050 \div 30.3 = 34.7週（173日）$	$1050 \div 27.6 = 38週（190日）$
4回（6時間1回）	$1050 \div 26 = 40.4週（202日）$	$1050 \div 29.3 = 35.8週（179日）$	$1050 \div 26.7 = 39.3週（200日）$
5回（毎日5時間）	$1050 \div 25 = \mathbf{42週（210日）}$	$1050 \div 28.3 = \mathbf{37.1週（186日）}$	$1050 \div 25.8 = \mathbf{40.7週（203日）}$

3-2 教育課程の編成による創造的な余白づくり

■ 時程の見直し（小学校）：週28コマ+モジュール3回（川崎市の時程）

- ・予備時数をほぼ0、週のコマ数を29コマ→28コマ（クラブ・委員会時は29コマ）にします。
 - ・川崎市内の事例を元にした時程で、完全下校時刻を基本的に15時となるようにします。
 - ・川崎市は1～2校時、3～4校時、5～6校時の間の休み時間がない分、下校時刻を押し上げやすい特徴があります。
- ※下記表は給食後、モジュール後、下校指導後に5分ずつのゆとりを設けています。

時程の例

	月	火	水	木	金
朝の会 (10)	8:30~8:40	8:30~8:40	8:30~8:40	8:30~8:40	8:30~8:40
1校時(45)	8:45~9:30	8:45~9:30	8:45~9:30	8:45~9:30	8:45~9:30
2校時(45)	9:30~10:15	9:30~10:15	9:30~10:15	9:30~10:15	9:30~10:15
中休み(25)	10:15~10:40	10:15~10:40	10:15~10:40	10:15~10:40	10:15~10:40
3校時(45)	10:40~11:25	10:40~11:25	10:40~11:25	10:40~11:25	10:40~11:25
4校時(45)	11:25~12:10	11:25~12:10	11:25~12:10	11:25~12:10	11:25~12:10
給食(45)	12:10~12:55	12:10~12:55	12:10~12:55	12:10~12:55	12:10~12:55
清掃(15)		13:00~13:15		13:00~13:15	
モジュール	13:00~13:15		13:00~13:15		13:00~13:15
5校時(45)	13:20~14:05	13:25~14:10	13:20~14:05	13:25~14:10	13:25~14:10
6校時(45)	14:05~14:50	(クラブ・委員会) 14:15~15:00		14:10~14:55	14:10~14:55
下校指導(5)	14:50~14:55	15:00~15:05	14:05~14:10	14:55~15:00	14:55~15:00
完全下校時刻	15:00	15:10	14:15	15:00	15:00

← 清掃週2回

← モジュール3回

3-2 教育課程の編成による創造的な余白づくり

■ 時程の見直し（中学校）：週28コマ+放課後活動×3（+自主練1回）の例

- ・予備時数をほぼ0、週のコマ数を29コマ→28コマにします。
- ・放課後活動を週3回+自主練習/活動（保護者・地域見守り）にした例です。
- ・日課の見直しと合わせて、完全下校時刻が17時となります。
- ・登校時間、朝練及び留守番電話の設定なども、合わせて見直していくことが考えられます。

時程の例

	月	火	水	木	金	
朝の会 (5)	8:25~8:35	8:25~8:35	8:25~8:35	8:25~8:35	8:25~8:35	
1校時(50)	8:40~9:30	8:40~9:30	8:40~9:30	8:40~9:30	8:40~9:30	
2校時(50)	9:40~10:30	9:40~10:30	9:40~10:30	9:40~10:30	9:40~10:30	
3校時(50)	10:40~11:30	10:40~11:30	10:40~11:30	10:40~11:30	10:40~11:30	
4校時(50)	11:40~12:30	11:40~12:30	11:40~12:30	11:40~12:30	11:40~12:30	
給食(35)	12:30~13:05	12:30~13:05	12:30~13:05	12:30~13:05	12:30~13:05	
清掃(10)	13:15~13:25		13:15~13:25		13:15~13:25	清掃週3回
5校時(50)	13:35~14:25	13:20~14:10	13:35~14:25	13:20~14:10	13:35~14:25	
6校時(50)		14:20~15:10		14:20~15:10	14:35~15:25	週28コマ
帰りの会(5)	14:30~14:35	15:15~15:20	14:30~14:35	15:15~15:20	15:30~15:35	
放課後活動	120分 14:40~16:40	90分 15:25~16:55		90分 15:25~16:55	75分(自主) 15:40~16:55	保護者・地域 見守り
完全下校時刻	16:45	17:00	14:35	17:00	17:00	

3-3 教員の負担軽減・業務改善

学年・学級の運営方法や外部人材の活用などについては、各方法の特徴を踏まえて今後も検討を進めていくこととしました。

■4つの対応の方向性②学年（チーム）担任制のイメージ（小学校）

・運営を学年全体で捉えて、交換・合同など、実態に合わせた最適な形を検討します。

学年（チーム）担任制のイメージ

前期：1組担任A 2組担任B 3組担任C 専科D 後期：クラスを決めず 3人（4人）で3クラスを担当			
組 時程	1組	2組	3組
朝の会	交換 A B C (D)		
1	A体育（交換）	B社会（交換）	C理科（交換）
2	B社会（交換）	C理科（交換）	D外国語（専）
3	C理科（交換）	D外国語（専）	A体育（交換）
4	D外国語（専）	A体育（交換）	B社会（交換）
給食	交換 A B C (D)		
清掃	A B C		
5	合同 3クラス合同で総合を指導 A B C		
6	A（担任・道徳）	B（担任・算数）	C（担任・国語）
帰りの会	固定 A	B	C

- クラス担任制（交換授業＋専科指導）に加え、合同授業や、朝の学級指導や給食・清掃指導でクラス担任を交換する。
- 1日の把握をするために、帰りの会はクラス担任を固定する。

3 - 3 教員の負担軽減・業務改善

■本市の学年（チーム）担任制の試行事例（小学校）

・複数の目で子どもを見たり、教科担任制を実施したりすることで、子どもを多角的に支援し、教員の負担を分担することが可能です。

小学校における学年（チーム）担任制の試行実施について

令和6年度後期から、次のとおり、8校でチーム担任制を段階的に試行実施することとした。

取組内容	校数	学校名
学年（チーム）担任制一部実施	3校	旭町小、宮前小、久地小
次年度の学年（チーム）担任制の導入を検討	4校	上丸子小、橘小、登戸小、百合丘小、西菅小

【試行実施校一覧】

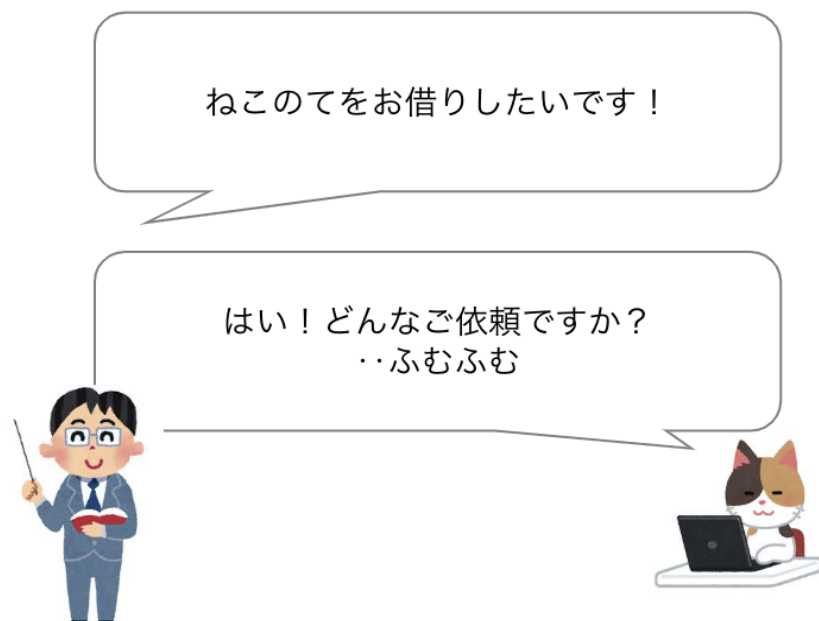
学校名	試行実施の内容
旭町小 学年（チーム）担任制一部実施	・複数の目で子どもをみる（児童理解）、ルールの定着（クラスの立て直し） ・経験の浅い先生の育成（児童指導、クラス経営） ・後期から、4年生、5年生、一部の教科で交換授業、朝の会や道徳の交換（新規） ※給食指導はアレルギー対応のため、クラス担任で実施
宮前小 学年（チーム）担任制一部実施	・複数の目で子どもをみる（児童理解） ・5年生（継続）1組担任：図工と算数、2組担任：理科、3組担任：社会、4組担任：家庭科と国語、専科：体育・音楽・書写（支援CO） ・6年生（継続）1組担任：家庭科と算数、2組担任：図工と国語、3組担任：社会、4組担任：理科、専科：体育・音楽・書写（非常勤講師） ※後期から、交換授業に加え、朝の会や給食指導も実施（新規） ・3年生（新規）は、後期から朝の会・給食・帰りの会のローテーション
久地小 学年（チーム）担任制一部実施	・複数の目で子どもをみる（児童理解） ・5年4クラス（継続）2クラス単位で理科と社会の交換授業 ・6年4クラス（継続）1組担任：体育、2組担任：図工・家庭、3組担任：理科、4組担任：社会 専科：音楽・英語・書写（非常勤講師） ※後期から、クラス担任以外でも相談可能（教科指導など）と周知（新規） ※朝や帰りの会はクラス担任（昼間のトラブル対応）

3-3 教員の負担軽減・業務改善

■教員の負担軽減 -保護者ボランティア-

【小倉小学校の事例】

- ・有志の保護者からの申し出から発足した「ねこのて」
- ・現在では110名以上が参加し、学校と保護者がお互いに意見を交換しながら、学校づくりをしていく取り組みです。
- ・PTAの有志数人からの申し入れで発足「ねこのて」
- ・2024年度の参加者は110名以上（全体の約1割）
- ・教頭先生から都度依頼を受け、ねこのてグループに投稿



依頼がきたよ！

〇月〇日、1年生の給食配膳をお手伝い

やります！

実績

- ・高学年家庭科のミシンや手縫い
- ・調理実習の授業のサポート
- ・新一年生の下校見守りサポート
- ・新一年生の給食サポート
- ・卒業生に向けた掲示物の製作
- ・給食台のクロス作り
- ・校内清掃 など



人出が欲しい、こういうスキルのある方を探しているなど、困っていることがあればとりあえずダメ元で
ご相談ください。

お声掛けして聞いてみるができます。

私たちからも日頃感じていることからのご提案をさせていただく場合があります。

お互いに「それはできない」「ここまではできそう」など率直な意見交換ができる関係を望んでいます。

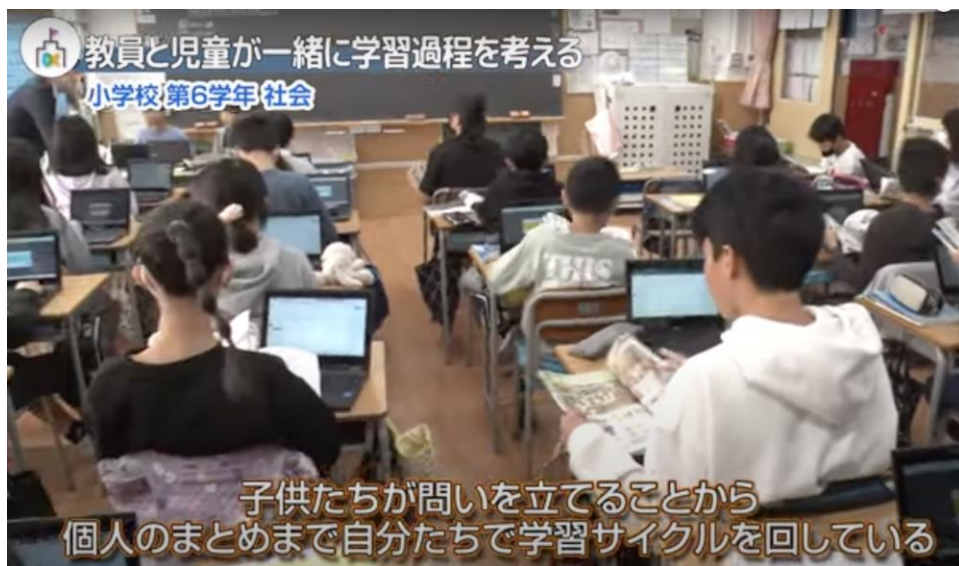
3 - 4 児童生徒主体の学びへ転換

教育の質を高めていく授業改善について、今後も検討を進めていくこととしました。

■ 4つの対応の方向性③児童生徒主体の学びへの転換（小学校）：子どもと共に創る学び

【南河原小の実践】

文科省のリーディングDX事業指定校として、「一人一人の子どもが主語の端末活用」「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」をテーマに、GIGA端末を活用しながら、子どもたちと共に創る学びを進めています。



引用：文部科学省 YouTube

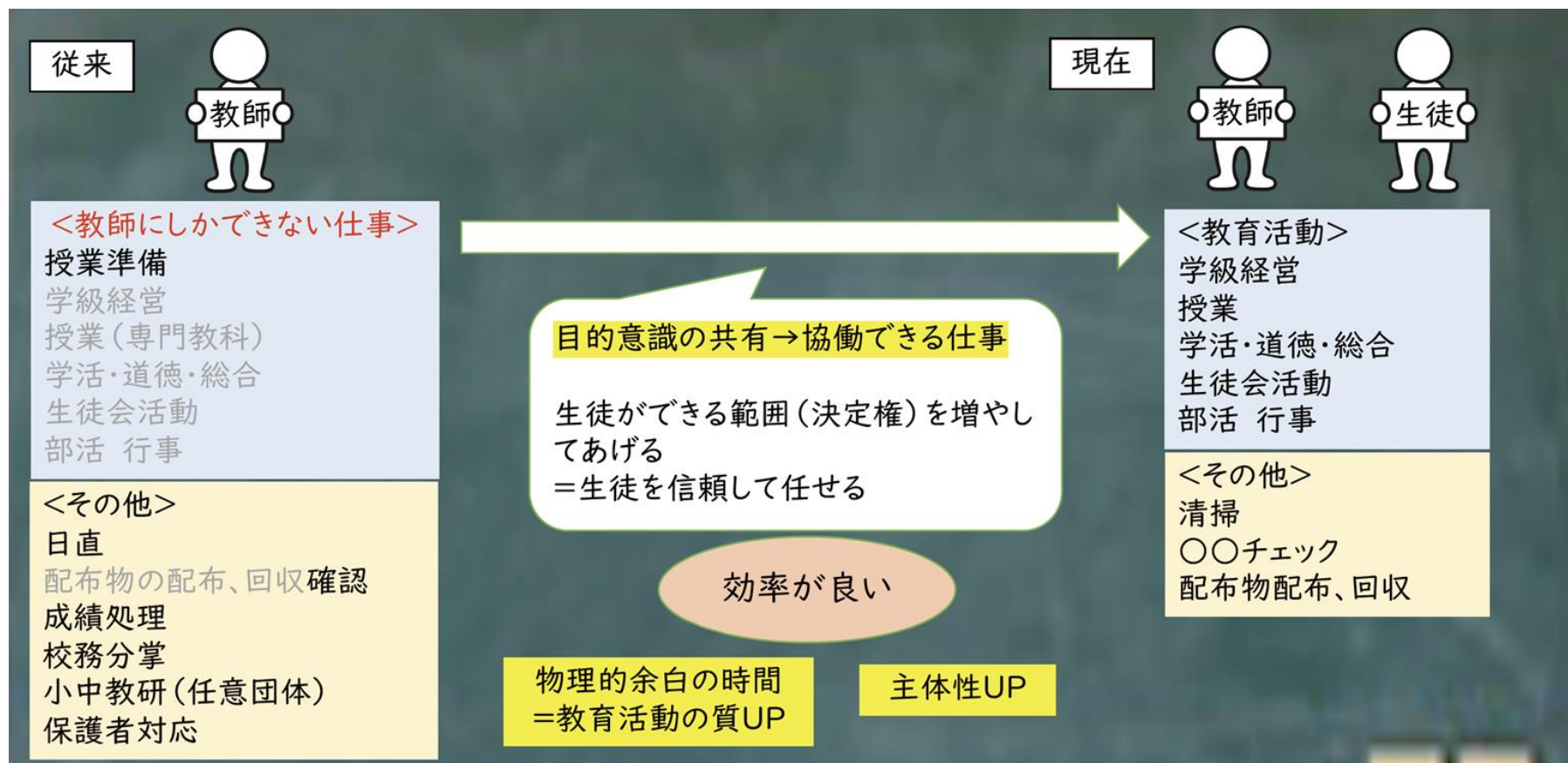
子供と教師が皆で取り組む「子供1人1人が主語になる授業」（リーディングDXスクール実践事例）

3 - 4 児童生徒主体の学びへ転換

■ 4つの対応の方向性③学びの転換（中学校）：単元でつくる学び・子どもと共に創る学び

- 先生一人で全てを把握する教育から、大人がチームとして子ども達の学びを支えていく教育へと転換していくことで、負担軽減と質の向上を並行して行っていくことができます。
- ローテーション等の負担軽減につながる活動は、結果的に教育の質を向上させます。

子ども達に管理（決定権）を渡す



3－4 児童生徒主体の学びへ転換

■4つの対応の方向性③学びの転換（小学校）：行事のあり方（運動会）

【登戸小学校の事例】

職員会議で「6年生企画の運動会にしましょう」と決定し、担当職員から児童へ“延期などの日程や競技数などの大まかな計画”を提案するように伝え、計画・実行を行いました。

項目	子どもたちの思い・内容
どんな運動会にしたいか	みんなが楽しめるようにしたい
そのために何をしたらよいか	- 子どものアイデアから係を決めた - 計画のために去年のことについて管理職にインタビューしに来ていた
子どもたちのアイデア	- プログラムをつくる！→配る？誰に？を自分達で考える - 応援して盛り上げたい→応援団 - スクールバンドの練習をしているから競技中に演奏をして盛り上げたい！ - 案内係や警備係が必要 - マスコットやテーマをみんなで決めたい - 全校競技は市政100周年のお祝いをしたい（若干は教員からの提案） - 近隣へのお手紙作成・配布 ※下作延小の場合：3つの選択種目について、競技方法などを考え児童が提案するなどの活動を行う
運動会の最後	- 校長からの話以外、閉会の言葉まで全て子どもだけの会にした - 最後はグラウンドの真ん中に集まった6年生をみんなで讃える

3-5 仕組みづくり・環境整備など

教育委員会事務局は学校現場との意見交換等を踏まえて教員等が働きやすい仕組みづくりや環境整備に向けた対応策を今後も検討を進めていくこととしました。

■4つの対応の方向性④仕組みづくり・環境整備など：時差勤務の試行実施

- 「第2次教職員の働き方・仕事の進め方改革の方針」に掲げる「働き方・仕事の進め方に関する意識改革の推進」に関する具体的な取組の一つとして時差勤務の試行を実施し、今後の本格実施に向けた検証を行いました。
- 離職防止や多様で有為な人材の確保の点から、より柔軟な働き方や多様なワークスタイル・ライフスタイルの実現に向けた取組を推進していく必要があります。

1 制度の概要

●勤務時間

7:00始業（15:30終業）から10:00（18:30終業）の間で、15分刻みでずらした勤務時間とし、原則2日前までに申請

●利用要件

職員のワーク・ライフ・バランスの向上や健康の維持・向上に資すると認められる場合（育児、介護、混雑緩和、その他から選択）

●上限回数

課業期間中は原則1週間につき1回。
ただし、長期休業期間中は回数の制限をしない。

2 利用実績

●試行実施校

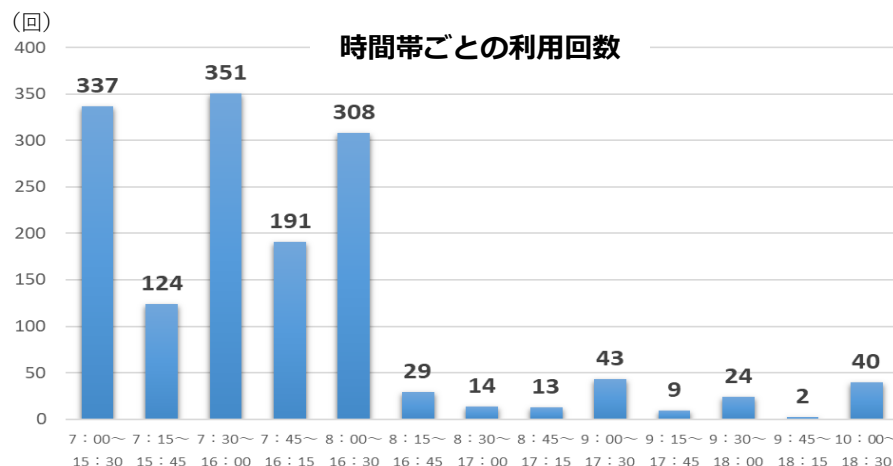
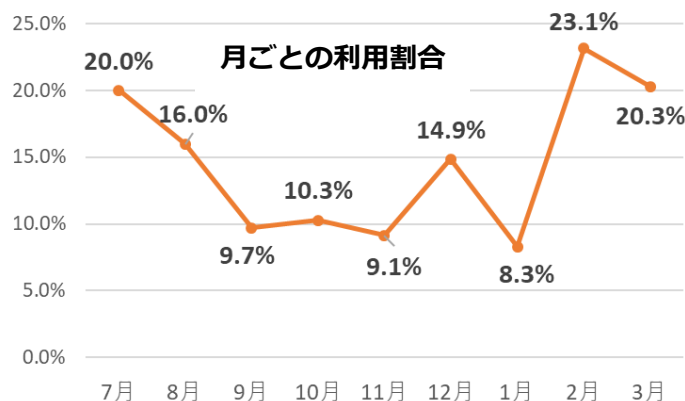
小学校4校、中学校2校、高等学校1校

●試行期間

令和6年7月～令和7年3月

●利用人数と割合

170人（48.6%）



3-6 取組の進め方の考察

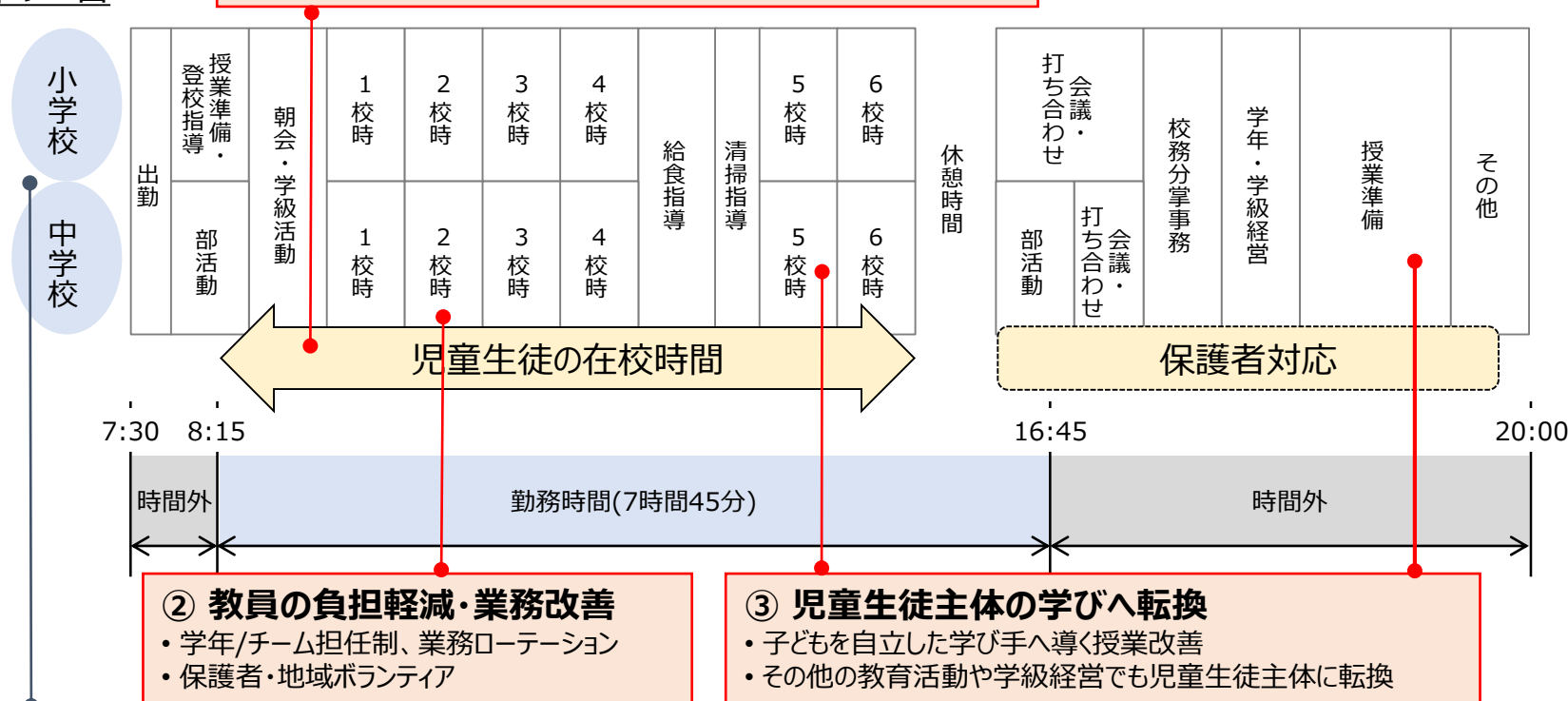
■ 4つの対応の方向性を踏まえた取組の8～9割が学校裁量

- ・方向性①～③については学校裁量で進めていくことが出来るため、市内でも既に多くの実践があります。
- ・一方④については、教育委員会が主体となって検討し、市全体で共通で取り組む施策やメッセージを打ち出すことで、学校と教育委員会が協力して変化を後押し、スピードを加速させる必要があります。

① 教育課程の編成による創造的な余白づくり

- ・年間授業時数や授業時間の見直し
- ・日課・時程表の見直し（〇〇指導の在り方見直しを含む）

■ 教師の一日



② 教員の負担軽減・業務改善

- ・学年/チーム担任制、業務ローテーション
- ・保護者・地域ボランティア

③ 児童生徒主体の学びへ転換

- ・子どもを自立した学び手へ導く授業改善
- ・その他の教育活動や学級経営でも児童生徒主体に転換

④ 仕組みづくり・環境整備など

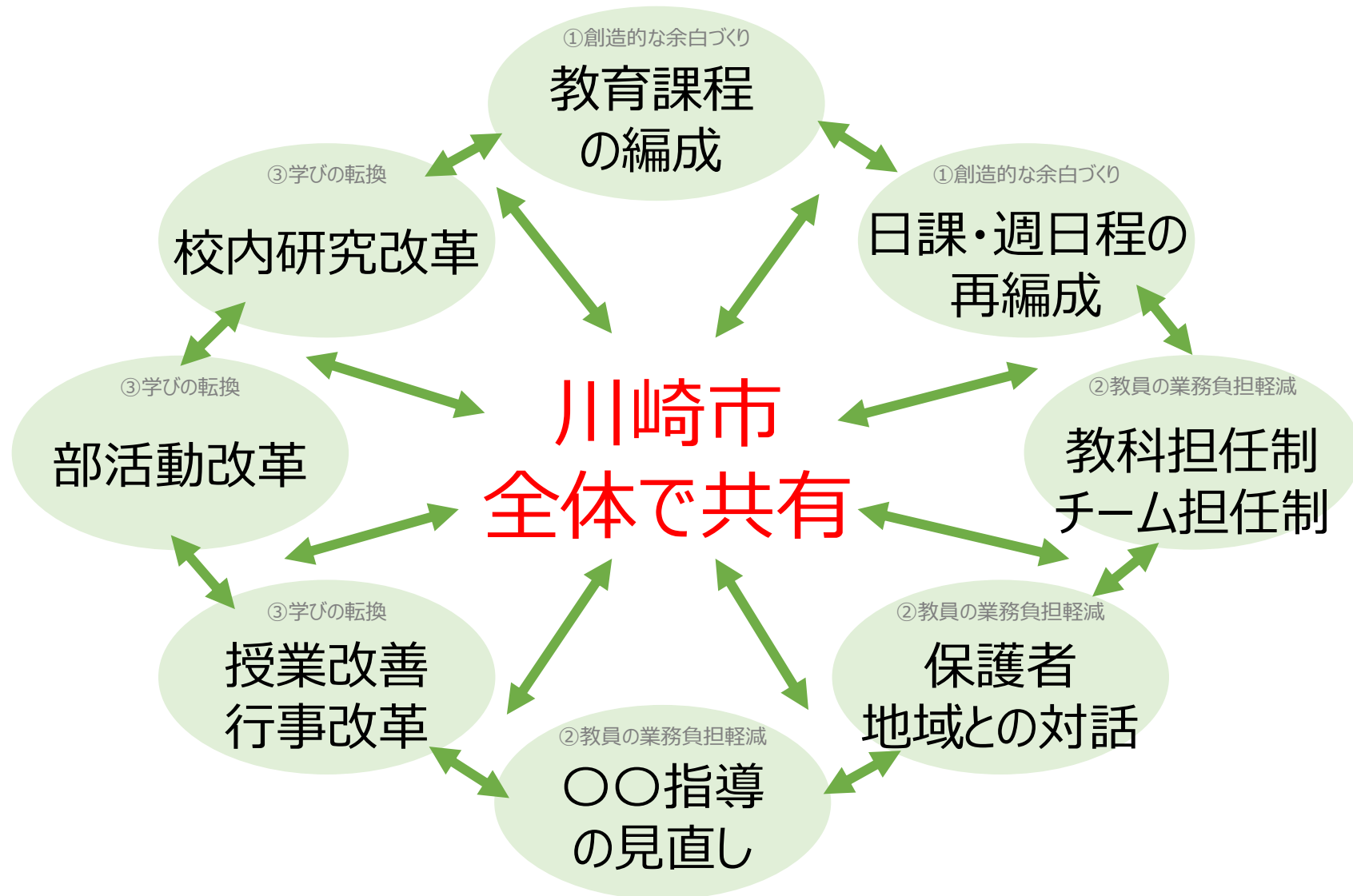
- ・人的配置による体制整備（専科の加配、各種支援員の配置など）
- ・多様な働き方を支える柔軟な制度・ルール整備（時差勤務の導入など）
- ・調査・通知文書のスリム化
- ・地域・保護者へ学校や教師の役割を発信するなど

予算化が必要なものは、優先順位をつけて取組を進めていく。

3-6 取組の進め方の考察

■市内共有について

- 前述の方向性①～③については既に市内で多くの実践があるものの、学校単位では部分実施となっており、これらを市全体で共有し、トータルパッケージで実施を進めることで、学校単位及び市全体での改善に大きなインパクトを創出することが可能になります。



4

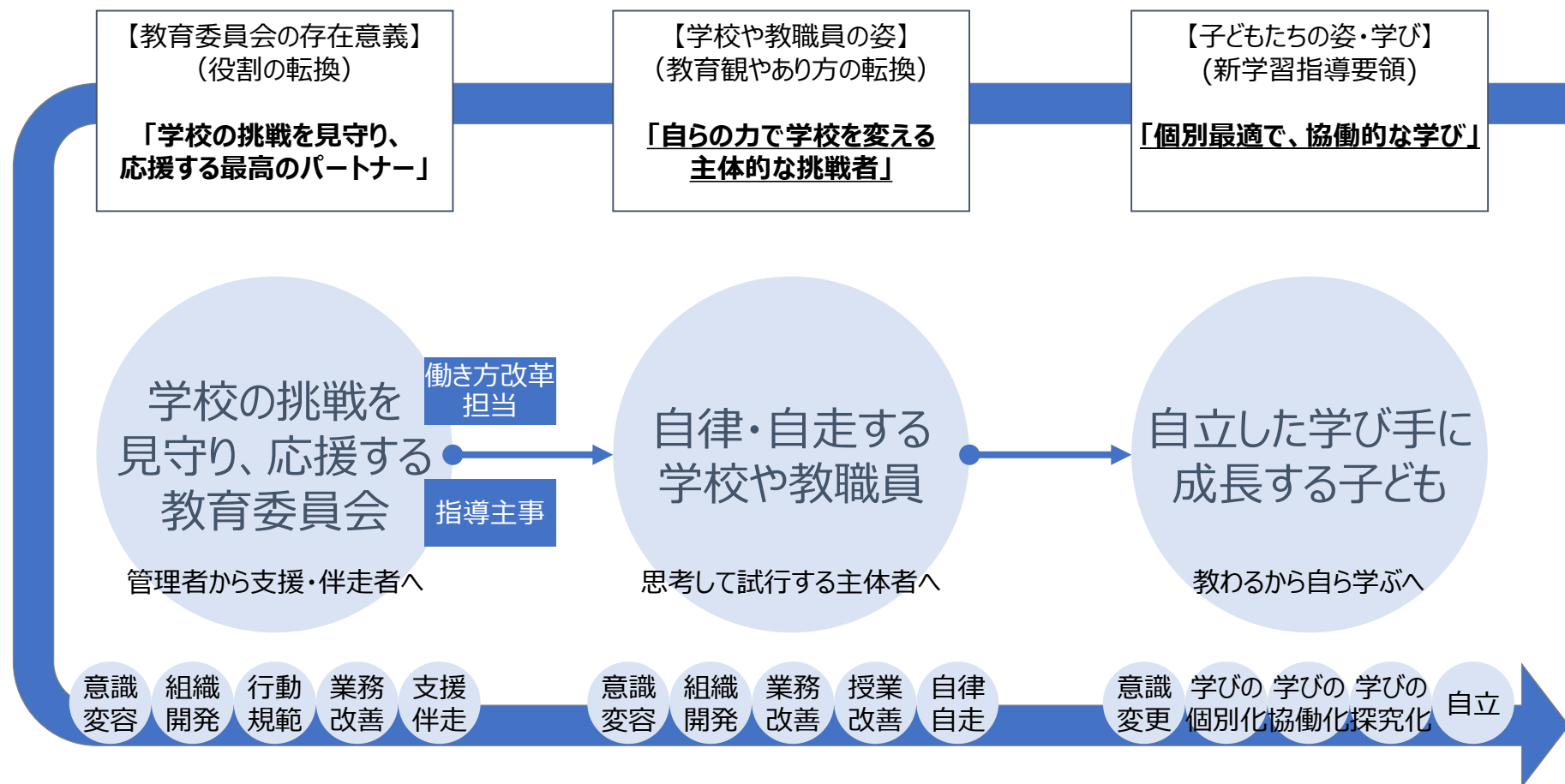
令和7年度への展開

4 令和7年度への展開

■これから目指す姿

学校や教職員が「自らの力で学校をより良く変えていく」ことで、新たな課題が発生しても自力で解決していけるようになり、それこそが子どもたちに身につけてほしい力そのものとなります。

また、それを後押しするためには、教育委員会事務局が全てをコントロールしようとするのではなく、「自律・自走する学校や教職員」を見守り、理解し、応援する役割への転換が必要となります。



4 令和7年度への展開

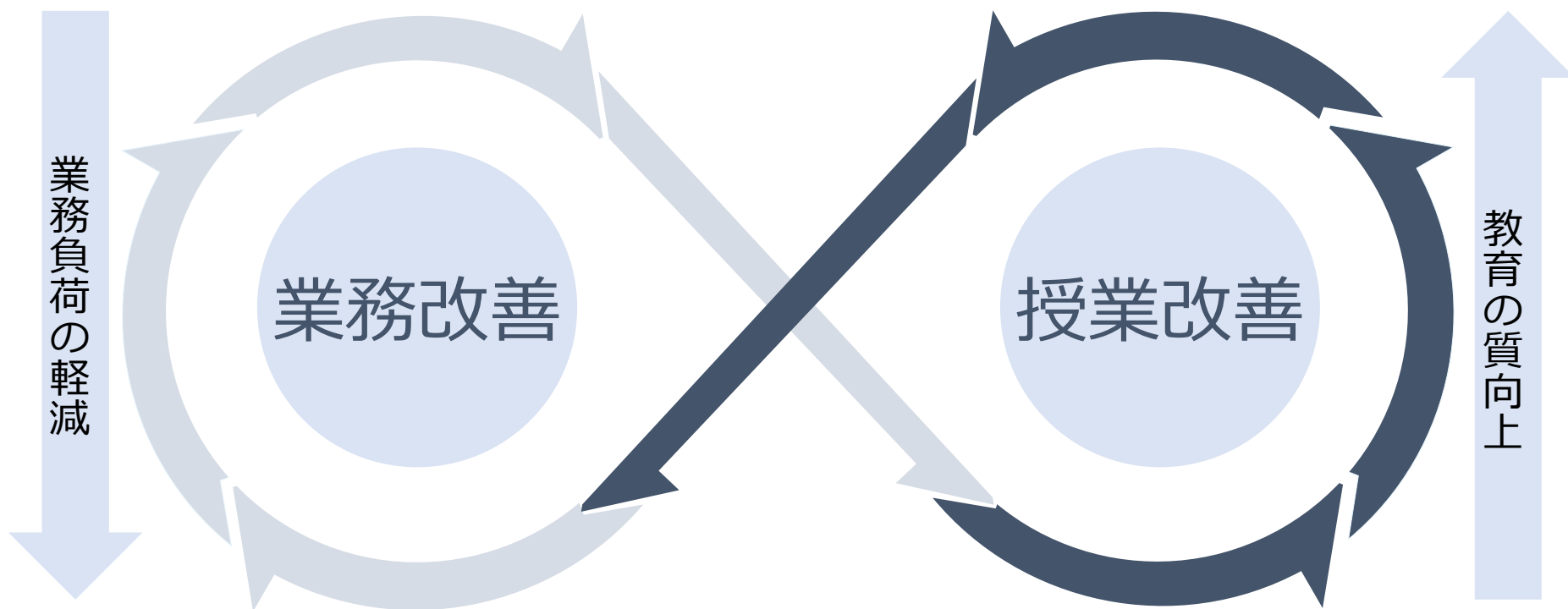
■ 学校の主体的な取り組みを支える両輪のアプローチ

業務改善のゴールは、「質の高い学び」と「持続可能な学校」を同時に実現することであり、「業務改善」×「授業改善」の両輪で変化を起こすことが必要になります。

業務改善によって創出された時間で授業改善を行い、教育の質を高めることで、子どもが自ら学ぶようになり、自立した学びに対して、必要以上の教職員の準備や介入が不要となり、更なる業務改善へと循環します。

教職員が主体的に取り組む業務改善

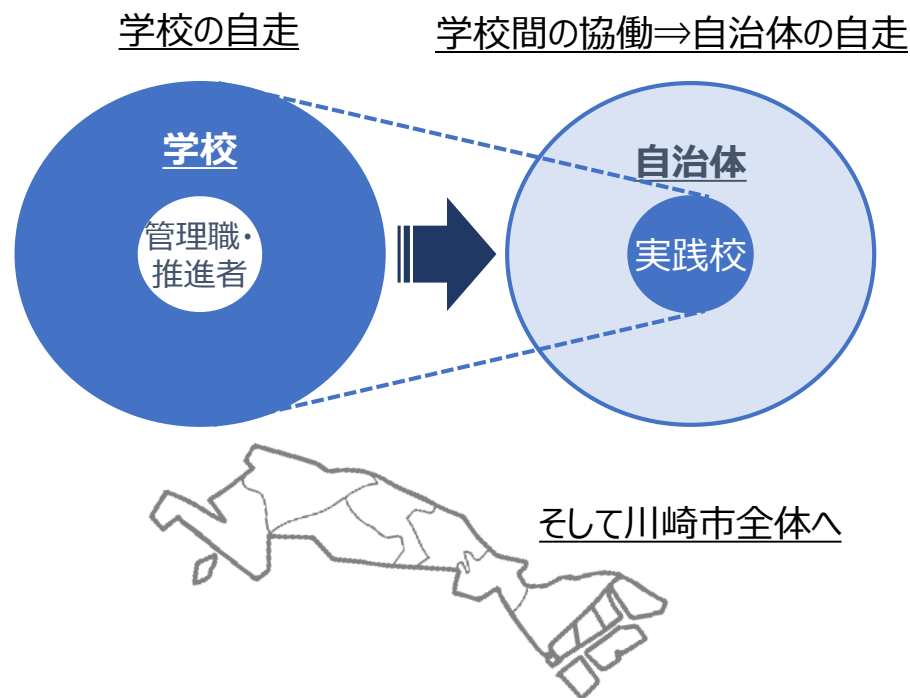
子どもを自立した学び手へ導く授業改善



4 令和7年度への展開

■これから目指す姿（市内展開への道筋）

- ・すでに多くの市立小中学校が学校裁量で取り組みを進めていますが、好事例を推進する実践校を創出し、「学校単位→市単位」とより良い変化の連鎖を起こすことが出来れば、数年で本市全域に広がっていくことが可能となります。
- ・教育委員会は、そのための仕組みづくりや取組の後押しを行うことで、展開を加速させることを目指します。
- ・各学校の実情に応じた伴走支援とともに、豊富な事例から実践します。



実践校の取組内容例

相談例	支援内容例	所管課・室（※）
■ 校内に温度差があり、業務改善を進めることが難しい。	⇒ 校内キックオフや中間支援にて、固定観念や関係性をほぐす支援を行います。	教育政策室 教職員企画課
■ 余白時間を生み出すために、時程の見直しを行いたい。	⇒ 余剰の取り方、教科時数カウント等について制度的運用の支援を行います。	指導課
■ 時間外の縮減のために、勤務時間の弾力的な運用をしたい。	⇒ 個別ケースに応じて、勤務時間の制度的な運用について支援を行います。	教職員企画課
■ 地域住民及びPTAとの関係性を変えたい。	⇒ 両者の対話や合意形成の支援を行います。	教育政策室 教職員企画課
■ 児童生徒主体の学びへの転換が難しい。	⇒ 「主体的、対話的で深い学び」に向けた研修及び実践例の紹介を行います。	総合教育センター

（※）所管課・室は窓口として、その他関係部署とも連携いたします。

学校の自走
（個別最適）

学校の自走（個別最適な取り組み）を後押しするための伴走支援によって取組を進め、実践を推進する実践校を創出します。

学校間・市内
の連携（協働）

教育委員会事務局が地区内・市内における実践校の情報共有を図り、その取組を価値付け、学校との連携・協働を促進することで展開を加速します。